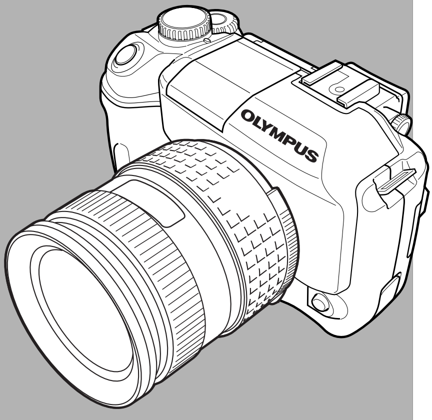
OLYMPUS

デジタルカメラ

E-300

取扱説明書

応用編



- この取扱説明書は、撮影・再生機能やカメラの機能・設定のカスタマイズ、撮った画像のパソコンへの取込みなど応用的なテクニックについて説明しています。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

本書の使い方

本書では、使いたい機能・知りたい機能をすぐに検索できるように、もくじ、索引、メニュー一覧のページが用意されています。

もくじから探す☞ P.4

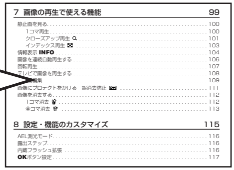
本書の全タイトルが並べられています。カメラを使い始める前に読む章や、撮影の基本操作を覚えたいときに読む章などの目的別に構成されています。

こんなときに

撮影した画像を再生したい

↓

「7 画像の再生で使える機能」の章から
「静止画を見る. . . . .100」のページを検索します。



7 画像の再生で使える機能 99
静止画を見る. 100
1コマ再生 100
クローズアップ再生 101
インデックス再生 103
情報表示 INFO 104
画像を連続自動再生する 106
回転再生 107
テレビで画像を再生する 108
…編集 109
画像にプロテクトをかける―誤消去防止 111
画像を消去する 112
1コマ消去 112
全コマ消去 113

8 設定・機能のカスタマイズ 115
AEL測光モード 116
露出ステップ 116
内蔵フラッシュ拡張 116
OKボタン設定 117

索引から探す☞ P.198

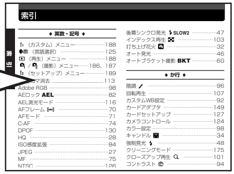
本書で使っている機能名などの用語が50音順に並べられています。本書を読んでいて、分からない言葉や知りたい言葉がでてきたときに、索引からその用語を使っているページを探すことができます。カメラの各部名称や液晶モニタに表示される内容の一覧も巻末に集められています。

こんなときに

「HQ」について知りたい

↓

「HQ. . . . .28」のページを検索します。



索引

♦ 英数・記号 ♦
（カスタム）メニュー……188
（言語選択）……125
（再生）メニュー……188
/ （撮影）メニュー……186、187
（セットアップ）メニュー……189
…コマ消去……113
Adobe RGB……98
AEロック AEL……82
AEL測光モード……116
AFフレーム……70
AFモード……71
C-AF……74
DPOF……130
HQ……28
ISO感度拡張……84
JPEG……27
MF……75
NTSC……126
後幕シンクロ発光 SLOW2……47
インデックス再生……103
打ち上げ花火……32
オート発光……46
オートブラケット撮影 BKT……60

♦ か行 ♦
階調……96
回転再生……107
カスタムWB設定……92
カードアダプタ……149
カードセットアップ……127
カメラコントロール……124
カラー設定……98
キャンドル……34
強制発光……48
クリーニングモード……175
クローズアップ再生……101
コントラスト……94

メニュー一覧から探す☞ P.186

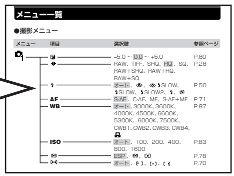
カメラのメニュー名がツリー構造で記載されています。メニューを操作しているときに、知りたいメニュー名がでてきたときはメニュー一覧からその機能の説明ページを探すことができます。

こんなときに

メニュー画面にある[WB]ではどんな設定をするの？

↓

メニューの操作順を追って「WB　　P.85」のページを検索します。



メニュー一覧

●撮影メニュー

メニュー	項目	選択肢	参照ページ
1		–5.0 ～ 0.0 ～ +5.0	P.80
		RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ、RAW+SHQ、RAW+HQ、RAW+SQ	P.28
		オート、、SLOW、SLOW、SLOW2、、	P.50
	AF	S-AF、C-AF、MF、S-AF+MF	P.71
	WB	オート、3000K、3600K、4000K、4500K、6600K、5300K、6000K、7500K、CWB1、CWB2、CWB3、CWB4、	P.87
	ISO	オート、100、200、400、800、1600	P.83
		ESP、、	P.78
		オート、、、	P.70

・本書の操作説明ページの読み方は、「操作説明ページの見方」(☞P.3)をご覧ください。

操作説明ページの見方

使用するカードを初期化する［カードセットアップ］

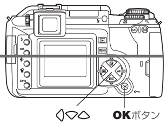
フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしなおしてください。
フォーマットすると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

設定できるモード P A S M SCENE

いずれかのモードに設定します。

1 メニュー→ →［カードセットアップ］
「メニューの使い方」(P.17)

メニューは矢印の順に操作します。(P. 17)



2 を押します。
● ［カードセットアップ］画面が表示されます。

3 を押して、［フォーマット］を選択します。を押します。
● ［フォーマット］画面が表示されます。

4 を押して、［実行］を選択します。**OK**ボタンを押します。
● フォーマットが実行されます。



十字ボタンを表しています。操作手順では使用する十字ボタンのみ表記しています。

8 設定・機能のカスタマイズ

127

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

本書の表記について

(!)	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
こんなときは	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

もくじ

4 いろいろな撮影機能 45

5 ピント合わせの機能 69

6 露出・色・画像 77

7 画像の再生で使える機能 99

8 設定・機能のカスタマイズ 115

9 プリントする 129

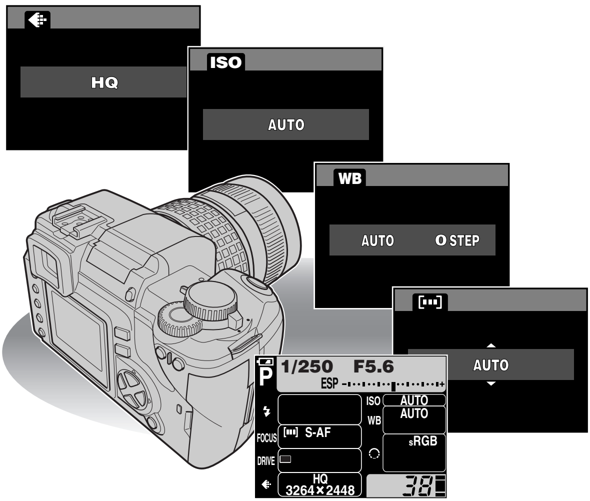
10 パソコンに取り込む 147

11 付録 165

12 資料 185

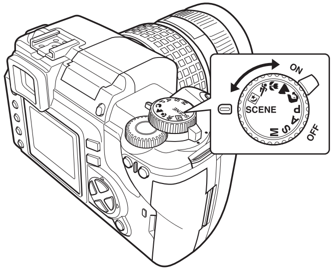
1 カメラの基本操作

プロカメラマンの高度な撮影テクニック。それは長年の経験によって得られるものです。
デジタルカメラはボタンを操作するだけで高度な撮影テクニックが可能です。
メニューには、撮影機能がずらりと並んでいます。ピント合わせの範囲を変えたり、ホワイトバランスなどの機能を簡単に使いこなせます。メニューの設定は液晶モニタを見ながら、ボタン操作で行います。各機能の説明を読む前に、まずはボタンとメニューの操作方法をマスターしましょう。



モードダイヤルの使い方

このカメラは以下の撮影モードを備えており、モードダイヤルをまわして切り替えることができます。
ダイヤル位置を**SCENE**にして電源入れると設定画面が表示されます。☞P.30



P　プログラム撮影
絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて設定します。☞P.35

A　絞り優先撮影
絞り値を自分で設定します。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。☞P.37

S　シャッター優先撮影
シャッター速度を自分で設定します。絞り値はカメラが自動的に設定します。☞P.39

M　マニュアル撮影
絞り値とシャッター速度を自分で設定します。☞P.41

ポートレート撮影
人物撮影をするのに最適です。☞P.32

風景撮影
風景を撮るのに最適です。☞P.31

マクロ撮影
被写体に近接した撮影をおこなうとき(マクロ撮影）に使用します。☞P.33

スポーツ撮影
スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。☞P.33

夜景撮影
夜景を撮るのに最適です。☞P.31

SCENE
撮影状況に合わせた10種類以上の撮影シーンから選択できます。モードダイヤルをセットしたときに選択画面が表示されます。☞P.30

ボタンとコントロールダイヤルの使い方

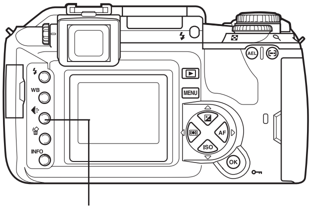
このカメラは、いろいろな撮影状況に適応できるように、多くの機能を備えています。それぞれの機能は、ボタンやコントロールダイヤルまたはメニューを使って設定します。

ボタンで設定する機能：ボタンとコントロールダイヤルを使って、液晶モニタに表示されるメニューやスーパーコンパネを見ながら機能を設定します。

メニューで設定する機能：液晶モニタに表示されるメニューを見ながら、機能を設定します。

1 設定したい機能のボタンを押します。

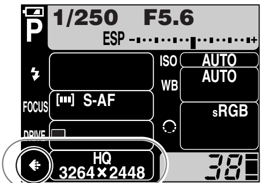
- スーパーコンパネ（☞P.196）が液晶モニタに表示されている場合：
  選択した機能の現在の設定値が、緑色に点灯します。
  スーパーコンパネが表示されていない場合：
  選択した機能のメニューが表示されます。



ボタン

例：（画質モード）ボタンを押したとき

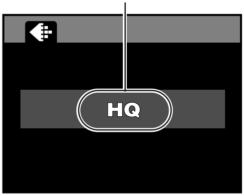
スーパーコンパネで設定する場合



画質モード

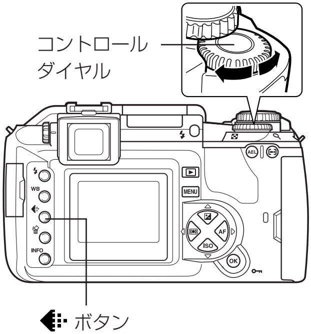
機能のメニューで設定する場合（スーパーコンパネを表示していないとき）

画質モード

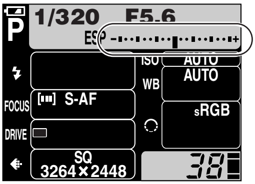


2 **ボタンを押してから、コントロールダイヤルを回します。**

- 何も操作しないと約3秒で設定が確定します。
- ダイレクトボタンをもう一度押すと、設定が確定してすぐにメニューを消すことができます。



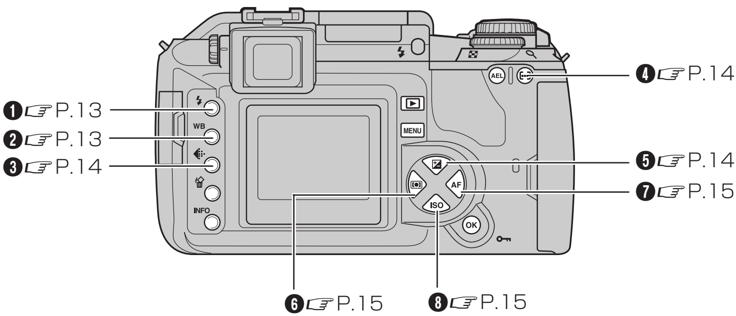
スーパーコンパネで設定する場合



機能のメニューで設定する場合

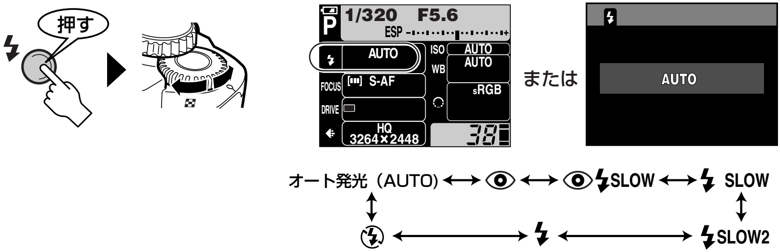


ボタンの種類



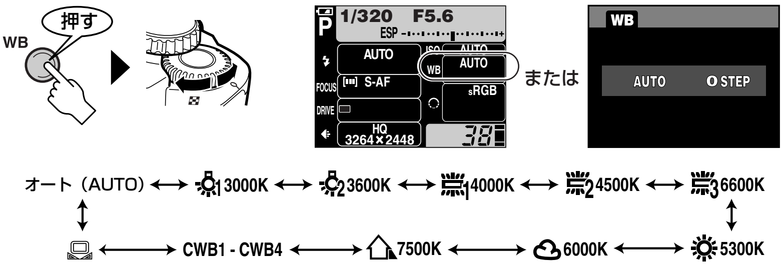
❶ ϟ（フラッシュモード）ボタン ☞P. 50

フラッシュモードをオート発光（AUTO）・赤目軽減発光・赤目先幕効果・スローシンクロ・強制発光・発光禁止より選択。



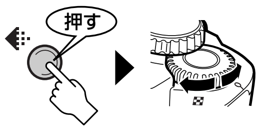
❷ WB（ホワイトバランス）ボタン ☞P. 87

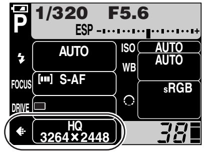
光源に合わせて、オート（AUTO）、プリセットホワイトバランス、設定したカスタムホワイトバランスまたはあらかじめ登録したワンタッチホワイトバランスから選択。



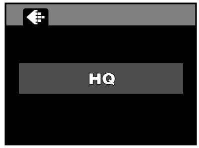
❸ (画質モード) ボタン ☞P. 28

撮影する画質を選択。





または

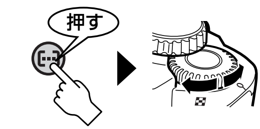


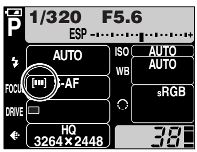
RAW ←→ TIFF ←→ SHQ ←→ HQ ←→ SQ
↕ ↕
RAW+SQ ←→ RAW+HQ ←→ RAW+SHQ

- SQ/HQモードはメニューで圧縮率や画像サイズを選択できます。
  ☞「HQとSQの設定をする」(P.28)

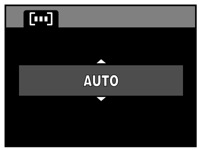
❹ [···] (AFフレーム選択) ボタン ☞P. 70

AFフレームを選択。マルチAFまたは3点のいずれかのフレームでAFするように設定できます。





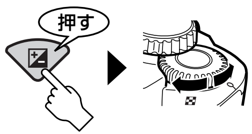
または

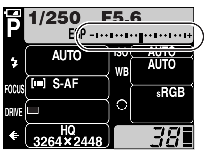


オート（AUTO）←→[·]←→[·]←→[·]

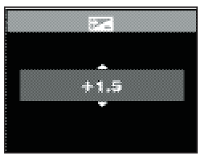
❺ (露出補正) ボタン ☞P. 80

露出補正値を設定。





または

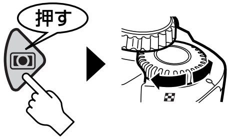


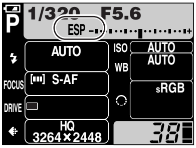
露出補正値：

- 露出は±5.0EVの範囲で補正。露出ステップは1/3EV・1/2EV・1EV刻みを選択可能。露出補正量は、露出ステップを変更していると変わります。
  ☞「露出ステップ」(P.116)

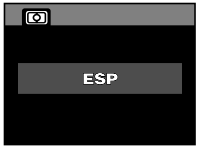
❻ [◙]（測光）ボタン ☞P. 78

測光モードを選択。





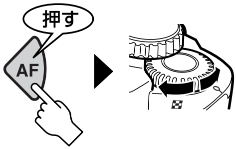
または

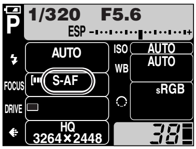


ESP ⟷ [◙] ⟷ [●]

❼ AF（フォーカスモード）ボタン ☞P. 71

フォーカスモードを選択。





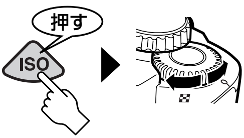
または

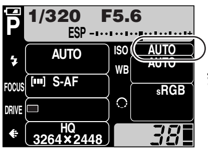


S-AF ⟷ C-AF ⟷ MF ⟷ S-AF+MF

❽ ISOボタン ☞P. 83

ISO感度を設定。





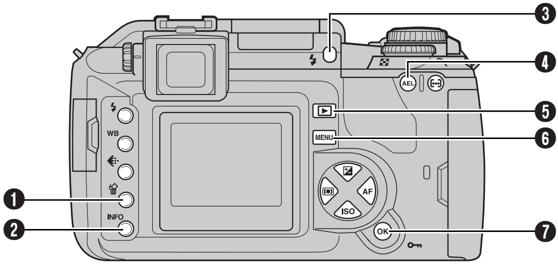
または



オート（AUTO）⟷ 100 ⟷ 200 ⟷ 400

- ISO感度拡張によって、800と1600を使用することもできます。
  ☞「ISO感度拡張モードの設定」(P.84)

その他のボタン



❶ （消去）ボタン ☞P. 112

不要な画像を消去します。

❷ INFO（情報表示）ボタン ☞P. 104

撮影時：スーパーコンパネにより撮影情報の表示をします。

再生時：撮影した画像の情報やヒストグラムを表示します。ボタンを押すたびに表示を切替えます。

❸ （フラッシュ）スイッチ ☞P. 50

内蔵フラッシュを起こします。

❹ AEL（AEロック）ボタン ☞P. 82

露出を固定。

❺ （再生モード）ボタン ☞P. 100

撮影した画像を液晶モニタで再生。

❻ MENU ボタン ☞P. 17

メニューを表示。

❼ OK/ （プロテクト）ボタン ☞P. 111、117

撮影時：あらかじめメニューの［OKボタン設定］で選んでいた撮影機能が使えます。

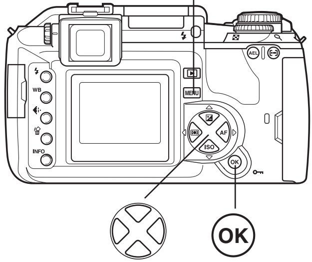
再生時：画像を誤って消去しないように、消去禁止の設定をします。

メニューの使い方

カメラの機能を設定します。液晶モニタにメニューを表示して選択・設定をします。
ここでは**P**モードでのメニュー操作を例にします。

1 MENUボタンを押すと、メニューが液晶モニタに表示されます。





ボタンの操作ガイドが表示されます。

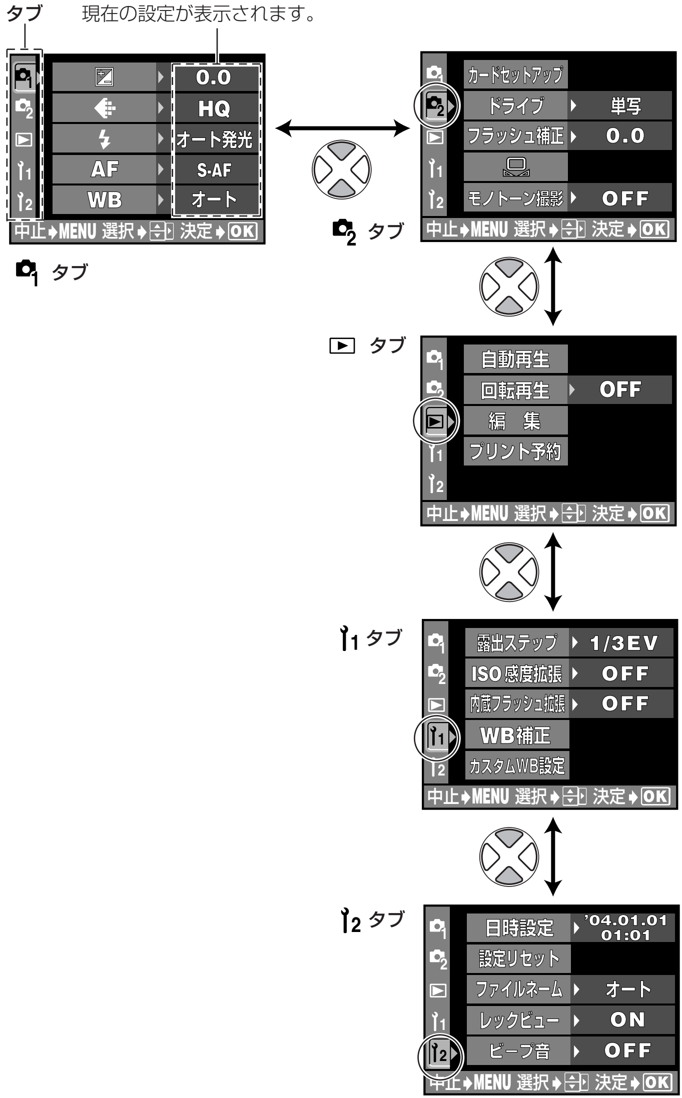
中止→ MENU ：**MENU**を押して設定を中止します。

選択→ ⬍▸ ：十字ボタンの◁▽△ を押して、選択肢を選びます。
表示されるマークは、以下の十字ボタンに該当します。
▲:▽ ▼:△ ▸:◁ ◂:▷

決定→ **OK** ：(OK) を押して選択肢を決定します。

2 ▽△ **を押してタブを選択します。**

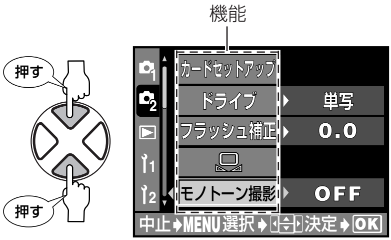
● 設定項目がタブで分類されています。



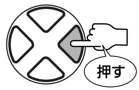
3 ◁ を押して、選択したタブの機能に移動します。



4 ▽△ を押して、機能を選択します。



5 ◁ を押して、選択した機能の設定項目に移動します。



6 ▽△ を押して、設定項目を選択します。



7 メニューから抜けるまで、繰り返し ㊉ を押します。

- 通常の撮影画面に戻ります。

ヒント

メニューで前の設定に戻るには

→ **MENU**ボタンを押します。

メニュー操作説明について

本書ではメニュー操作を次のように表記しています。

例：メニュー → 📷2 → [モノトーン撮影] → [OFF]、[モノクロ]、[セピア]

メニューの種類

タブ



📷1 ： ボタンとコントロールダイヤルを使って設定できる機能が、このタブからも設定できます。

📷2 ： 撮影に関する設定をします。

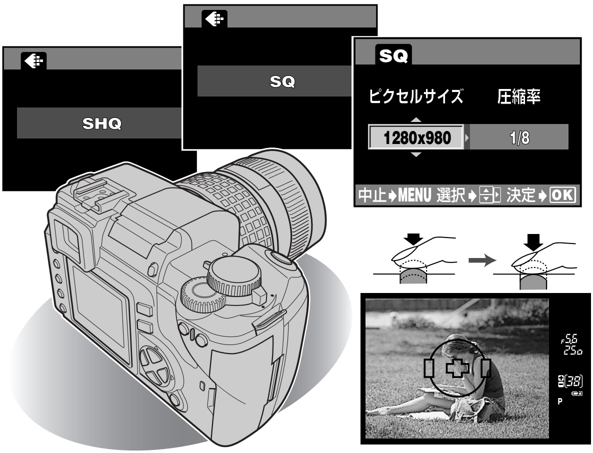
▶ ： 再生に関する設定をします。

🔧1 ： 撮影機能をカスタマイズします。

🔧2 ： カメラを使いやすくする機能を設定します。

2 撮影前に知っておきたいこと

Pモードにしてシャッターボタンを押すだけで、カメラが自動的にピントを合わせて撮影します。それでもピントが合わないときは、カメラが苦手な被写体なのかもしれません。ここでは撮影の基本、ピント合わせの方法を説明します。撮影のコツをしっかり覚えてください。
また、撮った画像をどう使うか、その目的に合わせて画質モードを選ぶことも大切なポイントです。「大きくプリントしたら画像が粗くなった」「メールで送りたいのに容量が大きすぎる」— こんなことがないよう、撮影前には画質モードを確認しましょう。



ピントが合わないとき

カメラは3つのAFフレームによって、自動的にピントを合わせるべきものを検出します。
被写体を検出する際、コントラストの強さも判断の基準になります。被写体のコントラストが周囲に比べて弱いときや、よりコントラストの強い部分がAFフレーム上にあるときは、カメラは判断を誤る場合があります。その場合のもっとも簡単な対処法にフォーカスロックがあります。

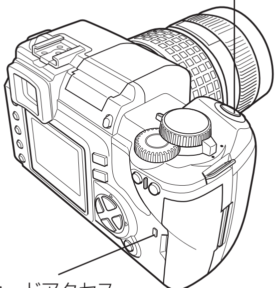


ピント合わせの方法 — フォーカスロック

設定できるモード P A S M [ポートレート] [風景] [マクロ] [スポーツ] [夜景] SCENE

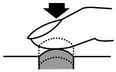
1 ピントを合わせたいものにAFフレームを合わせます。

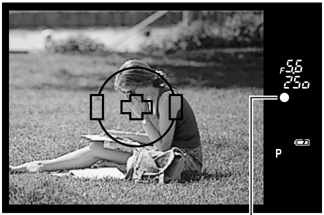




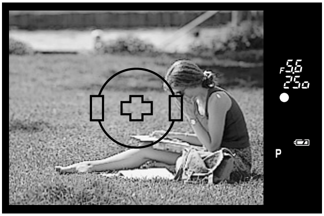
2 **シャッターボタンを合焦マークが点灯するまで半押しします。**

- ピントが固定されます。AF合焦マークと、ピントの合ったAFフレームがファインダで点灯します。
- 合焦マークが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらして、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- スーパーコンパネが消えます。



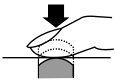


3 **半押しした状態のまま、撮影したい構図にします。**



4 **シャッターボタンを押し込みます。（全押し）**

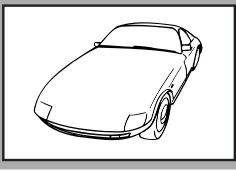
- 撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、画像がカードに記録されます。



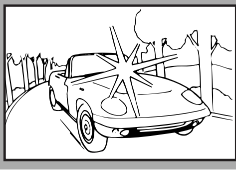
オートフォーカス（AF）が苦手な被写体

次のような場合、AFでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック（☞P.22）やMF（☞P.75）を使って撮影するか、AFフレームの選択（☞P.70）を行って撮影してください。

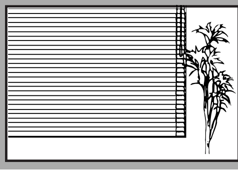
合焦マークが点滅
このようなものにはピントが合いません



コントラストがはっきりしない被写体



画面中央に極端に明るいものがある場合

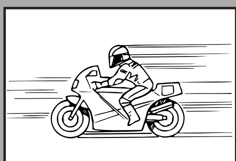


繰り返しパターン

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合いません



遠いものと近いものが混在する場合



動きの速いもの



被写体がAFフレーム内にない

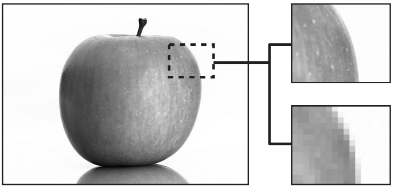
いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてピントを合わせた後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

画質モードを選択する

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや画像（ピクセル）サイズについてはP.27の表をご覧ください。

画質モードの種類

画質モードでは、記録する画像のピクセル数と圧縮する度合いの組み合わせを選択できます。画像はピクセル（点）の集まりでできていて、ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は１枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、カードに記録できる枚数が少なくなります。また圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。



画像サイズが大きい場合

画像サイズが小さい場合

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる（記録できる枚数が少なくなる）↑

用途	画質（圧縮率）／画像サイズ	非圧縮 1/1	低圧縮 1/2.7	高圧縮 1/4	高圧縮 1/8
プリントサイズに合わせて選択	3264×2448	TIFF	SHQ	HQ	
	3200×2400 2560×1920 1600×1200 1280×960 1024×768	–	SQ		
小さいプリントやホームページ用	640×480				

画像サイズ

画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。

圧縮率

RAW・TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ

撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100%）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

RAW

ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない未加工のデータです。パソコンで画像として表示するにはOLYMPUS Masterを使います。Photoshopで再生するためのプラグインソフトもあります（当社ホームページからダウンロードできます）。一般のソフトウェアで表示したり、プリント予約することはできません。このカメラで、画質モードをRAWデータに設定して撮影した画像を編集することができます。☞「静止画編集」（P.109）

画質モード

画質モード	画像サイズ（ピクセルサイズ）	圧縮	ファイル形式	ファイルサイズ(MB)
RAW	3264 x 2448	非圧縮	ORF	約13.5
TIFF		非圧縮	TIFF	約23.3
SHQ		1/2.7	JPEG	約6.1
HQ		1/4		約4.3
		1/8		約1.9
SQ	3200 x 2400	1/2.7		約5.9
		1/4		約4.1
		1/8		約1.9
	2560 x 1920	1/2.7		約4.0
		1/4		約2.4
		1/8		約1.2
	1600 x 1200	1/2.7		約1.4
		1/4		約0.9
		1/8		約0.5
	1280 x 960	1/2.7		約0.9
		1/4		約0.6
		1/8		約0.3
	1024 x 768	1/2.7		約0.6
		1/4		約0.4
		1/8		約0.2
	640 x 480	1/2.7		約0.2
		1/4		約0.2
		1/8		約0.1

表内のファイルサイズはおおよその目安です。

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもファインダや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。

画質モードの選択方法

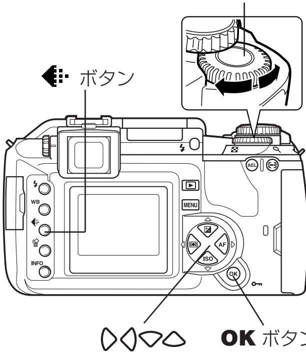
設定できるモード P A S M

1 （画質モード）ボタンを押します。
● 現在の設定が液晶モニタに表示されます。

2 選択したい設定が表示されるまでコントロールダイヤルをまわします。



スーパーコンパネが消えているとき



HQとSQの設定をする

画像サイズと圧縮率を選択します。

設定できるモード P A S M

1 メニュー → → ［HQ］、［SQ］ 「メニューの使い方」(P.17)

2 を押して設定に移動します。
を押して設定を選択します。OKボタンを押します。
［圧縮率］と［ピクセルサイズ］の両方を選択するときは、を押して［ピクセルサイズ］から［圧縮率］へ移動します。





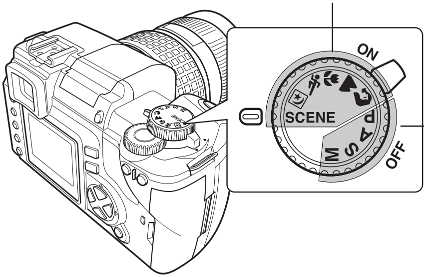
ピクセルサイズ：画像サイズを選択します。（SQのみ）
圧縮率：圧縮率を選択します。

3 撮りたいものに合わせて設定する−風景、記念撮影、夜景etc

花やアクセサリーなど小さな物をアップで撮影したい、走り回る子どもなど動きの速い被写体をうまく写したい、夜景をバックに撮りたい・・・そんなとき、カメラをどう設定していいか分からず、あきらめてしまったことはありませんか？
このカメラでは、面倒な設定を必要とするような場面でも、メニューで撮影条件に合ったモードを選ぶだけで、簡単に思い通りの写真を撮ることができます。
その他、露出モードを選び、絞り値やシャッター速度を自分で設定して撮影する方法もあります。数値の微妙な設定で画像の仕上がりが違ってきます。どんどん撮って、カメラ撮影の腕を磨いていきましょう。



このカメラには4つの露出モード（**P**プログラム撮影・**A**絞り優先撮影・**S**シャッター優先撮影・**M**マニュアル撮影）と10種類以上の撮影シーンがあります。モードダイヤルとメニューを使って設定します。



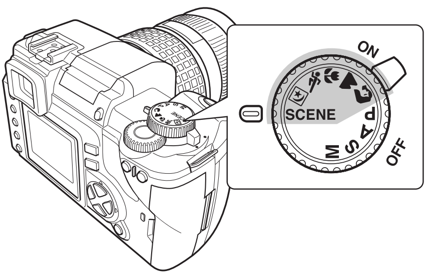
撮影シーンで選ぶ

撮影シーンや撮影状況に合わせて選択すると、カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

1 モードダイヤルを使いたい撮影シーンに設定します。

を選択した場合：カメラが選択したモードになります。

SCENEを選択した場合：SCENEメニューが表示されます。



2 ▽△ を押して撮影シーンを選択します。（SCENEのみ）

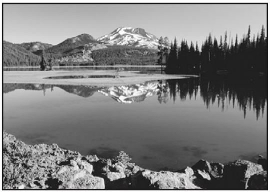
☞「メニューの使い方」(P.17)

- 選択している撮影シーンのサンプル画像が表示されます。

3 OKボタンを押します。

- カメラが撮影モードに入ります。
- 設定を変更したいときは、**OK**ボタンを再度押すとSCENE画面が表示されます。

風　景



風景を撮るのに最適です。近景から遠景までピントが合うように写します。また青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然の中での撮影には効果的です。

記念撮影



人物と風景をいっしょに撮るのに最適です。
近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。

夜　景



夜景を撮るのに最適です。
街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので、光っている点だけの画像になってしまいます。
夜景モードでは、街の様子も写し出します。

- 夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

夜景＆人物



夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。

- 夜景&人物撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。
- フラッシュは赤目軽減モードで発光します。
  ☞「フラッシュモード」(P.46)

打ち上げ花火



夜空に打ち上げられた花火を撮るのに最適です。
- シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。
- フラッシュは使えません。
- AFは使えません。マニュアル操作（MF）でピントを合わせてください。

夕　日



夕景を撮るのに最適です。赤や黄色を鮮やかに再現します。
- フラッシュは使えません。
- シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

ポートレート



人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。

ハイキー



明るいものをより明るく撮るのに最適です。印象的な画像に仕上がります。

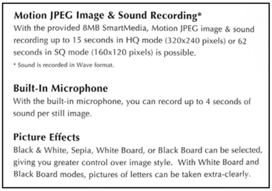
マクロ



被写体に近接した撮影をおこなうとき（マクロ撮影）に使用します。

- フラッシュ使用時は影が目立ったり、適正な明るさにならないことがあります。

ドキュメント



Motion JPEG Image & Sound Recording*
With the provided 8MB SmartMedia, Motion JPEG image & sound recording up to 15 seconds in HQ mode (320x240 pixels) or 62 seconds in SQ mode (160x120 pixels) is possible.
* Sound is recorded in Wave format.

Built-In Microphone
With the built-in microphone, you can record up to 4 seconds of sound per still image.

Picture Effects
Black & White, Sepia, White Board, or Black Board can be selected, giving you greater control over image style. With White Board and Black Board modes, pictures of letters can be taken extra-clearly.

書類や時刻表を撮るのに最適です。文字と背景の明暗をはっきりと再現します。

- フラッシュは使えません。

マナーショット



フラッシュや操作音を消して撮ります。美術館など、フラッシュや音が気になる場所での撮影に最適です。

- SHQおよびHQでの撮影はできません。☞「画質モードを選択する」(P.25)

スポーツ



スポーツなどの動きのある被写体を撮るときに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮影することができます。

ビーチ&スノー



晴天の海や雪山で撮影するのに最適です。空・緑・人物をきれいに再現します。

キャンドル



キャンドルライトを活かした画像を撮るのに最適です。温かみのある色が再現されます。

- フラッシュは使えません。
- SHQおよびHQでの撮影はできません。☞「画質モードを選択する」(P.25)

撮影手法に合わせて選ぶ－P・A・S・M

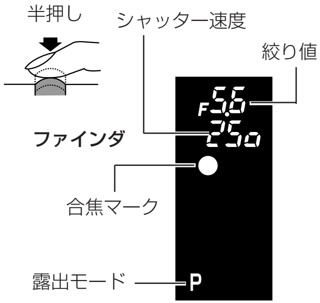
P：プログラム撮影

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定するオート露出モードです。
プログラムシフトを使って、適正露出のまま絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更することもできます。

1 モードダイヤルをPにします。

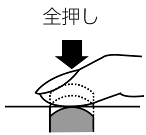
2 シャッターボタンを半押しします。

- ピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- ファインダに、カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。



3 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。

- 撮影されます。

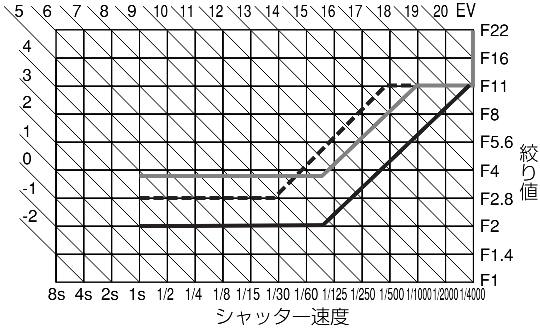


P（プログラム）モードの絞り値とシャッター速度

P（プログラム）モードのときは、被写体の明るさに応じて、下のグラフ（プログラム線図）のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図は装着するレンズによって変わります。

ED 50mm F2 MACRO の場合

（例） EV値が7の場合、絞り値はF2、シャッター速度は1/30となります。

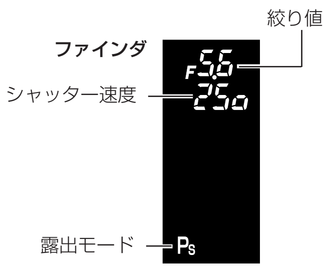


：単焦点レンズ(ED 50mm F2 MACRO)使用時
：ズームレンズ(14mm-54mm F2.8〜3.5)使用時のワイド端
：ズームレンズ(14mm-54mm F2.8〜3.5)使用時のテレ端

プログラムシフト（Ps）

Pモードのときコントロールダイヤルをまわすと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できます（プログラムシフト）。

プログラムシフトは、撮影した後でも解除されません。解除するには、ファインダ内の表示Psが、Pに変わるまでコントロールダイヤルを回します。または、カメラの電源を一度切ります。フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。



A：絞り優先撮影

絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定するオート露出モードです。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のぼけが強くなります。絞り値を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。プレビュー機能を使って背景のボケ具合を確認することができます。



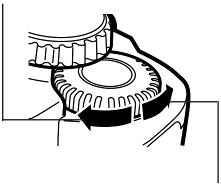
絞り値（F値）を小さくする



絞り値（F値）を大きくする

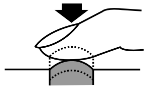
1 **モードダイヤルをAにします。**

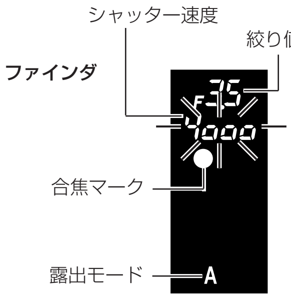
2 **コントロールダイヤルを回して、絞り値を設定します。**



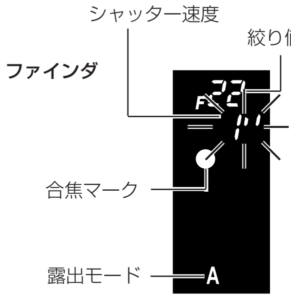
3 シャッターボタンを半押しします。

- ピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- ファインダに、カメラが自動的に決定したシャッター速度が表示されます。



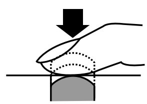


シャッター速度表示が点滅しているときは、露出オーバー（過度）です。絞り込んで(絞り値を大きくして)ください。



シャッター速度表示が点滅しているときは、露出アンダー（不足）です。絞りを開いて(絞り値を小さくして)ください。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。



こんなときは

絞り値を変更したがシャッター速度の点滅が終わらない

→ 速い秒時でシャッター速度の表示が点滅している場合は、ISO感度を下げるか、NDフィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「明るさに合わせた設定−ISO感度」(P.83)

→ 遅い秒時でシャッター速度の表示が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「明るさに合わせた設定−ISO感度」(P.83)

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P.116)

設定した絞り値での被写界深度を確認したい

☞「プレビュー機能」(P.44)

S：シャッター優先撮影

シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定するオート露出モードです。シャッター速度を速くして動きの中の一瞬をとらえたり、シャッター速度を遅くして躍動感を表現することができます。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。



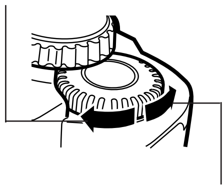
シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影されます。



シャッター速度を遅くすると、動いているものはブレて撮影されます。このブレが躍動感や動きのある仕上がりになります。

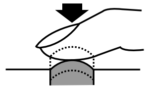
1 **モードダイヤルをSにします。**

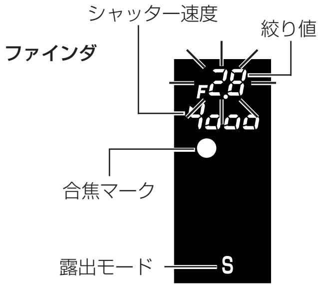
2 **コントロールダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。**



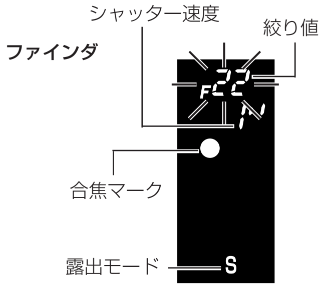
3 シャッターボタンを半押しします。

- ピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- ファインダに、カメラが自動的に決定した絞り値が表示されます。



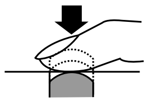


絞り値が開放絞り（値がもっとも小さい）で点滅しているときは、適正露出が得られていません（露出アンダー）。シャッター速度を遅くします。



絞り値が最小絞り（値がもっとも大きい）で点滅しているときは、適正露出が得られていません（露出オーバー）。シャッター速度を速くします。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。



シャッター速度の表示

1秒以下のときは、秒数の分母が表示されます。たとえば1/200秒であれば［200］と表示されます。1秒以上のときは、秒数と［"］が表示されます。たとえば、1秒であれば、［1"］と表示されます。

こんなときは

画像がブレる

→ 近接撮影や超望遠撮影では、画像がブレやすくなります。シャッター速度をより速く設定するか、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

シャッター速度を変更したが絞り値の点滅が終わらない

→ 最小絞り（値がもっとも大きい）で絞り値の表示が点滅している場合は、ISO感度を下げるか、NDフィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「明るさに合わせた設定−ISO感度」(P.83)

→ 開放絞り（値がもっとも小さい）で絞り値の表示が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「明るさに合わせた設定−ISO感度」(P.83)。

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P.116)

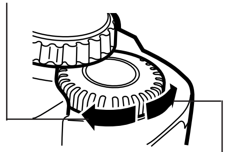
M：マニュアル撮影

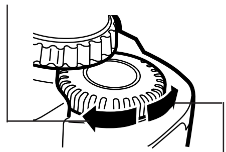
絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出との差は露出レベルインジケータで確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。また、天体撮影や打ち上げ花火の撮影などに便利なバルブ（bulb）撮影も可能です。

1 **モードダイヤルをMにします。**

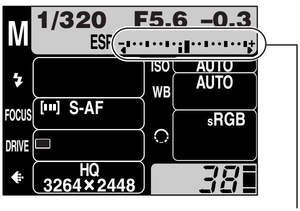
2 コントロールダイヤルを回して、絞り値を設定します。
（露出補正）ボタンを一度押し、コントロールダイヤルを回してシャッター速度（30〜1/4000秒）を設定します。

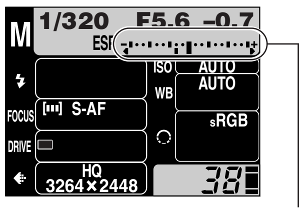
- ダイヤルをまわすごとに、1/3EVステップで絞り値とシャッター速度が変わります。
- スーパーコンパネに露出レベルインジケータが表示されます。設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が、−3EV〜+3EVの範囲で表示されます。





スーパーコンパネ





露出レベルインジケータの両端にある◀ ▶が点滅するときは、適正露出との露出差が表示可能範囲より大きいことを示しています。

 露出アンダー

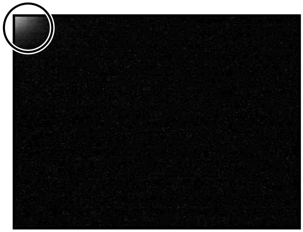
 露出オーバー

 適正露出

3 撮影します。

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生したり、画面左上が明るく写る場合があります。これはCCDの温度上昇や、CCD内部の駆動回路が熱源となり、本来CCDに光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、30秒以上の長秒時の露出で顕著に現れます。ノイズリダクションを使うと、これらのノイズを軽減することができます。



☞「長秒時の画像のノイズを軽減する［ノイズリダクション］」(P.97)

バルブ（bulb）撮影について

シャッターボタンを押しているあいだ露光し続けるバルブ撮影（最長8分まで）が可能です。Mモードでシャッター速度を［bulb］に設定します。別売のパワーバッテリーフォルダとリモートケーブルを使ってバルブ撮影することもできます。

こんなときは

画像がブレる

→ シャッター速度を遅くして撮影するときは、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

露出の調整間隔を変更したい

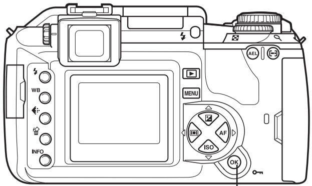
→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P.116)

プレビュー機能

OKボタンを押すことで、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。
あらかじめ**OK**ボタンにプレビュー機能を割り当てておきます。
☞「**OK**ボタン設定」(P.117)

設定できるモード P A S M

1 **OK**ボタンを押します。

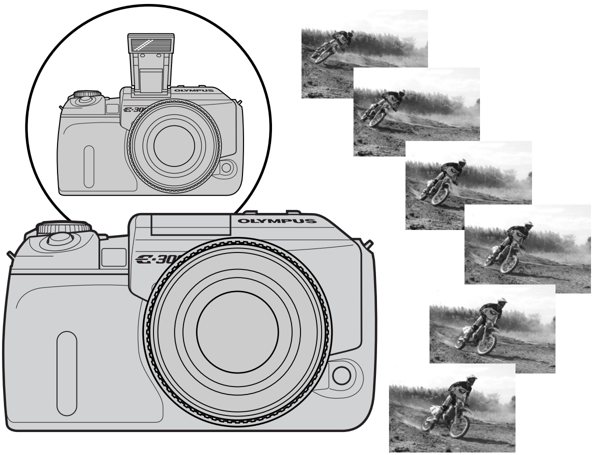


OKボタン

❗ 注意
プレビュー中は、測光値は変わりません。

4 いろいろな撮影機能

撮影テクニックを向上するには、フラッシュやドライブモード（連写）の活用も大きな鍵です。フラッシュモードを使い分けたり、フラッシュの発光量を調整すると、画像の仕上がりが違ってきます。
内蔵フラッシュのほか、外部専用フラッシュを使うと、さらに画像の印象が変わります。
連写では、露出やホワイトバランスを連続的に変化させて撮影ができます。シャッターボタンを押すごとに、何度も設定を変える必要はありません。



フラッシュ撮影

フラッシュモード

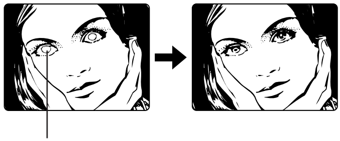
発光パターンや発光タイミングなど、目的に合わせたフラッシュモードを設定します。設定可能なフラッシュモードは、露出モードによって異なります。フラッシュモードは専用フラッシュ（別売）にも適応します。

オート発光 AUTO

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFフレームを合わせて撮影してください。

赤目軽減発光 ◉

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、赤目軽減発光に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。



注意

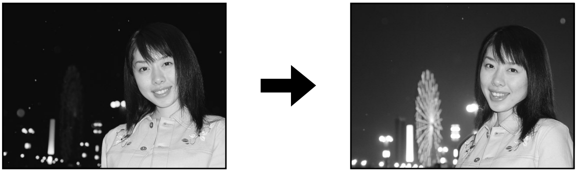
- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

スローシンクロ（先幕シンクロ） SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると、被写体と背景の両方を写し込むことができます。シャッター速度が遅いので、背景がブレないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕シンクロについて

フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行なわれます。

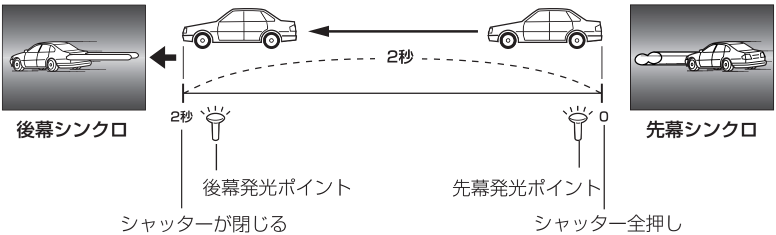


スローシンクロ（後幕シンクロ）　SLOW2

シャッターが閉じる直前にフラッシュが光るようになっています。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。シャッター速度の最長は、撮影モードにより異なります。

Pモード　　　　　　　　　　　　　　：2秒
A/S/M（バルブも使用可）モード　：30秒

シャッター速度が2秒のとき

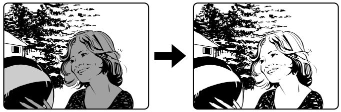


スローシンクロ＋赤目軽減発光　SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

強制発光 ⚡

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。



注意

フラッシュ発光時、シャッター速度は1/180より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、背景が露出オーバーになることがあります。このような場合は、専用フラッシュFL-50やFL-36を使用して、スーパーFP発光モードに設定してください。

強制発光＋赤目軽減発光 👁⚡

フラッシュを強制的に発光させ、かつ目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

強制発光＋スローシンクロ（後幕シンクロ） ⚡ SLOW2

後幕のタイミングで、フラッシュを強制的に発光させます。

露出モードによる使用可能なフラッシュモード

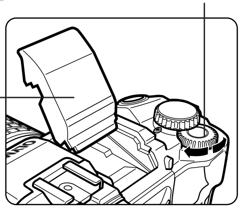
露出モード	スーパーコンパネの表示	フラッシュモード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
P A	AUTO	オート発光	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*のとき発光	AUTO／◉は1/30〜1/180
	◉	オート発光(赤目軽減)			
	◉ ϟSLOW	スローシンクロ(赤目軽減)			2〜1/180に制限
	ϟSLOW	スローシンクロ			
	ϟSLOW 2	スローシンクロ(後幕シンクロ)	後幕シンクロ		
	ϟ	強制発光	先幕シンクロ	いつでも発光	
	⊘ϟ	発光禁止	–		
S M	ϟ	強制発光	先幕シンクロ	いつでも発光	60〜1/180に制限
	◉ ϟ	強制発光(赤目軽減)	先幕シンクロ		
	ϟSLOW 2	強制発光(後幕シンクロ)	後幕シンクロ		
	⊘ϟ	発光禁止	–		

＊ 専用フラッシュがスーパーFPモードに設定されているとき、逆光を判定して発光します。
☞「スーパーFP発光について」(P.55)

フラッシュモードを設定する

設定できるモード P A S M 

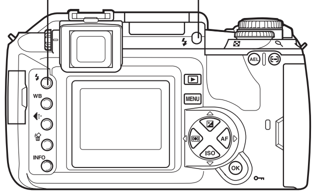
1 ⚡（フラッシュ）スイッチを押して、内蔵フラッシュを起こします。



2 ⚡（フラッシュモード）ボタンを押します。

- 現在の設定が表示されます。

3 選択したい設定が表示されるまで、コントロールダイヤルを回します。





スーパーコンパネが消えているとき

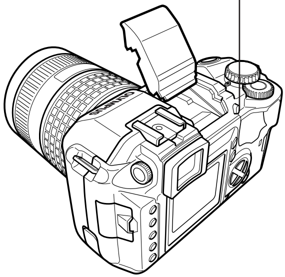
内蔵フラッシュ拡張

メニューの［内蔵フラッシュ拡張］（☞P.116）をONに設定すると、固定した発光量で発光させることができます。

内蔵フラッシュを使う

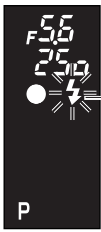
14mm(35mmフィルム換算28mm）より広角のレンズを使用した場合、被写体に1m以内に近づくとフラッシュの光がけられる場合があります。

1 ϟ（フラッシュ）スイッチを押して、内蔵フラッシュを起こします。



2 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光するときは、ϟ（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

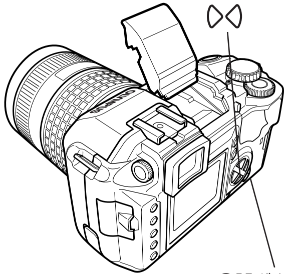


3 シャッターボタンを全押しします。

フラッシュの発光量補正

フラッシュの発光量を調整します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗の差）を意図的につけたいときにも有効です。

設定できるモード P A S M



1 メニュー → 2 → ［フラッシュ補正］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 を押します。
- 設定画面が表示されます。

3 発光量を増やす：
を押すたびに、1/3EVずつ発光量が増えます。
発光量を減らす：
を押すたびに、1/3EVずつ発光量が減ります。
- 補正ステップを1/3EV、1/2EV、1EV、から選択できます。
☞「露出ステップ」(P.116)

4 OKボタンを押します。

注意

- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで調光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。
- フラッシュ補正は使用しているフラッシュに有効です。内蔵フラッシュと専用フラッシュの両方を同時に使用しているときは、総発光量に有効です。

専用フラッシュ（別売）について

このカメラでは、内蔵フラッシュの他に別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。

専用フラッシュは、当社製のエレクトロニックフラッシュFL-50、FL-20などが使用可能です。専用フラッシュはカメラ本体と連動し、TTLによるオートフラッシュをはじめ、赤目軽減発光、スローシンクロ、発光量の補正など多彩なフラッシュ撮影が行えます。専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。

専用フラッシュ3機種の機能比較

専用フラッシュ	FL-50	FL-36	FL-20
調光モード	TTLオート（スーパーFP発光）/ TTLオート/オート/マニュアル/マニュアル（スーパーFP発光）	TTLオート（スーパーFP発光）/ TTLオート/オート/マニュアル/マニュアル（スーパーFP発光）	TTLオート/オート/マニュアル
内蔵フラッシュとの併用	ホットシューに取り付けた状態では内蔵フラッシュとは併用できません。	併用可。	
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85mm＊時） GN28（24mm＊時）	GN36（85mm＊時） GN26（24mm＊時）	GN20（35mm＊時）

＊ 35mmフィルム換算

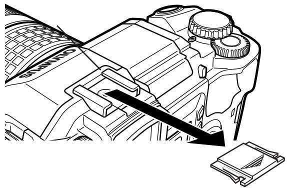
専用フラッシュを使った撮影

ここでは、エレクトロニックフラッシュFL-50（別売）を使う場合の説明をします。フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

設定できるモード P A S M

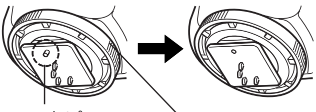
1 ホットシューカバーを図の矢印の向きにスライドさせて外します。

- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用フラッシュを取り外した後は再度はめ込んでください。



2 専用フラッシュFL-50を、カメラのホットシューに取り付けます。

- フラッシュのロックピンが出ている場合は、フラッシュのシューロックダイヤルをまわして、あらかじめ引込めておいてください。
- 取り付け方はFL-50の取扱説明書をご覧ください。

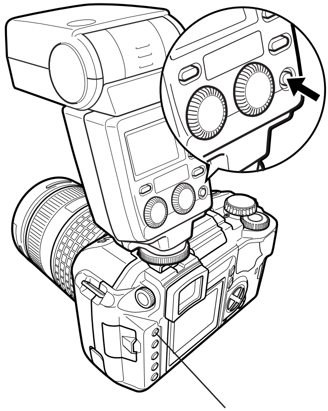


3 フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュのチャージランプが点灯したら充電完了です。
- フラッシュの同調速度は1/180秒以下です。

4 フラッシュモードを選択します。

☞「フラッシュモードを設定する」（P.50）

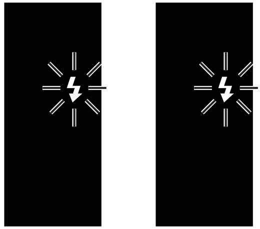


5 **撮影意図に合わせてフラッシュの調光モードを選択します。**

6 **カメラのシャッターボタンを半押しします。**
- カメラ・フラッシュ間で、ISO感度、絞り、シャッター速度などの撮影情報の通信が行われます。
- ファインダで ϟ が点灯します。

7 **シャッターボタンを全押しします。**

ファインダ

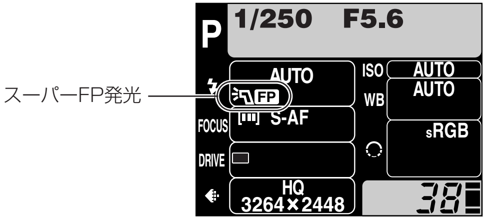


ϟ 点滅：フラッシュ充電中　ϟ 点灯：フラッシュ充電完了

注意
- TTLオートで撮影する際は、本発光前に調光のためのプリ発光があります。
- TTLオートで撮影する場合、ISO感度400以上で被写体が遠い場合は、調光の精度が悪くなります。

スーパーFP発光について

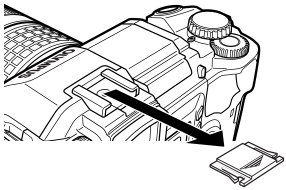
専用フラッシュFL-50やFL-36ではスーパーFP発光が可能です。スーパーFP発光は通常の発光に比べ、長時間発光を続けます。したがって、通常の発光では使用できない高速のシャッター速度でも撮影できます。
ポートレート撮影などで開放絞りでのフラッシュ撮影が行えます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。



4 いろいろな撮影機能

市販のフラッシュを使った撮影

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュは、カメラ側から発光量を調整することはできません。小型の汎用フラッシュは1/180秒以下、スタジオ用などの大型フラッシュは1/125秒以下のシャッター速度で同調させることができます。使用できる市販のフラッシュの詳細についてはP.57をご覧ください。



1 **ホットシューカバーを取り外し、フラッシュをカメラに接続します。**

2 **露出モードをMモードにし、絞り値とシャッター速度を設定します。**
☞「マニュアル撮影」（P.41）
- シャッター速度を遅く設定すると、画像がブレる可能性があります。

3 **フラッシュの電源を入れます。**
- 電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 **フラッシュ側の調光モードをオートに設定し、フラッシュのISO感度と絞り値をカメラのISO感度と絞り値にそれぞれ合わせます。**
- フラッシュ側の調光モードの設定方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意
- カメラ側のフラッシュモードは、後幕シンクロ以外は市販のフラッシュには適応されません。
- フラッシュは常に発光します。フラッシュが不要の場合は、フラッシュの電源を切ってください。
- ご使用になるフラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認ください。

使用できる市販のフラッシュについて

（1）フラッシュ使用時の露出は、フラッシュ側で調整する必要があります。フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
（2）フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合はフラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。（カメラ側の露出補正はフラッシュ撮影においては無効となります。）
（3）レンズの焦点距離に合った照射角のフラッシュをお使いください。レンズの焦点距離に約2倍した数字が35mmフィルムでのレンズの焦点距離になります。
（4）**専用フラッシュ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。**

ドライブモード DRIVE

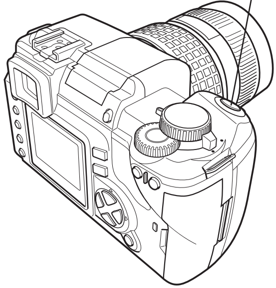
ドライブモードには以下の種類があります。

単写 ▭	一度のシャッターボタンの押しで、1コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード、1コマ撮影）
連写 ▭	シャッターボタンを押している間、約2.5コマ／秒で約4枚以上（SHQ，HQ，SQ）連続撮影します。ピント、露出は、最初の1コマで固定されます。（C-AFを除く☞P.74）
オートブラケット撮影 BKT	露出（AEブラケット撮影）やホワイトバランス（WBブラケット撮影）を連続的に変化をさせて撮影ができます。☞「オートブラケット撮影」（P.60）
セルフタイマー撮影	シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの時間を、12秒か2秒に設定します。☞P.64
リモコン撮影	別売のリモコンを使って撮影します。☞P.64

連写

設定できるモード P A S M

1 **メニュー→ 2→［ドライブ］→［連写］**
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 撮影します。

● シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。

注意

- ［ノイズリダクション］が［オン］の場合、連写はできません。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

オートブラケット撮影　BKT

露出やホワイトバランスの設定に迷ったり、設定を変えて何度も撮り直せないときに利用できます。

AEブラケット撮影

1コマごとに自動的に露出を変えて撮影します。露出をどの程度変化させるか（露出量と補正ステップ）を設定できるので、逆光や夕景などの適性露出を得にくい条件や露出補正量に迷ったときでも、気に入った一枚を残すことができます。適正〜－補正〜＋補正の順に撮影されます。

例：
BKT設定が[1.0]の場合


－1.0


±0

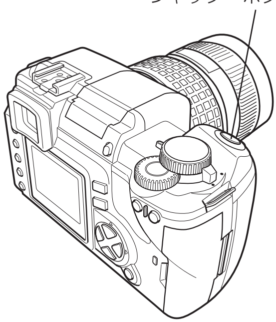

＋1.0

補正量　：0.3・0.7・1.0
露出補正量は、露出ステップを変更していると変わります。露出ステップはメニューで変更可能です。露出補正量は±1.0までです。
☞「露出ステップ」（P.116）

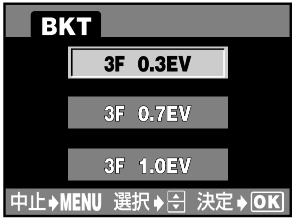
撮影枚数：3枚

設定できるモード　P A S M

1 メニュー→ 2 →［ドライブ］→［BKT］
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 ◁ を押します。
- ［BKT］選択画面が表示されます。

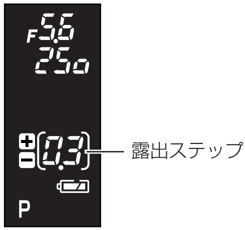


3 ▽△ を押して、補正量を選択します。
OKボタンを押します。

4 単写の場合：
シャッターボタンを全押しするごとに、1枚ずつ露出を変えて撮影します。
- ファインダ内に次の撮影の設定が表示されます。

連写の場合：
設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。自動的に露出を変えて撮影します。
- シャッターボタンから指を離せば、ブラケット撮影を一時中断できます。

ファインダ



露出モードによる補正の方法

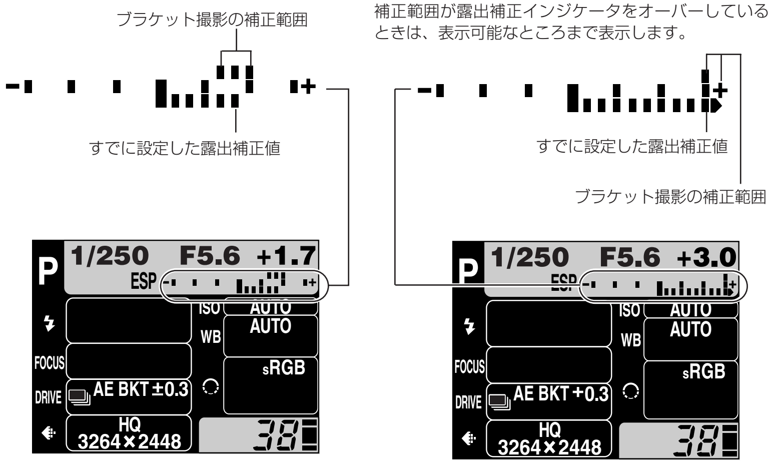
設定している露出モードによって、AEブラケット撮影で補正される方法が異なります。

Pモード：絞り値とシャッター速度
Aモード：シャッター速度
Sモード：絞り値
Mモード：シャッター速度

こんなときは

補正した露出を中心にAEブラケット撮影をしたい

→ 露出補正値を設定した状態で、AEブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてAEブラケット撮影が行われます。



注意

- フラッシュが発光可能な設定の場合、オートブラケット撮影はできません。
- WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと、続けて撮影ができません。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

WBブラケット撮影 WB BKT

1回の撮影から、色合い（ホワイトバランス）を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カードには、まず撮影された画像、赤味を強くした画像、青味を強くした画像の順に記録されます。

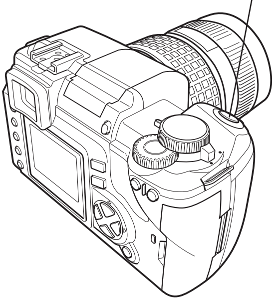
設定できるモード P A S M

1 メニュー→ [カメラ2] → [WB BKT] → [オフ]、[3F 2STEP]、[3F 4STEP]、[3F 6STEP]

☞「メニューの使い方」(P.17)

2 撮影します。

- 1度のシャッターボタンの全押しで、3コマの画像を作成します。



こんなときは

補正したホワイトバランスを中心にWBブラケット撮影をしたい

→ WB補正をした状態で、WBブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてWBブラケット撮影が行なわれます。

セルフタイマー撮影 ⏲ ／リモコン撮影 （リモコン別売）

セルフタイマー撮影かリモコン撮影が選択できます。

セルフタイマー撮影 ⏲ ：
シャッターボタンを押してから、12秒後にシャッターが切れるセルフタイマーと、2秒後にシャッターが切れるセルフタイマーがあります。セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。
リモコン撮影 ：
別売のリモコン（RM-1）を使って撮影します。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れるモードと2秒後にシャッターの切れるモード（2秒タイマー）の2つがあります。

設定できるモード P A S M SCENE

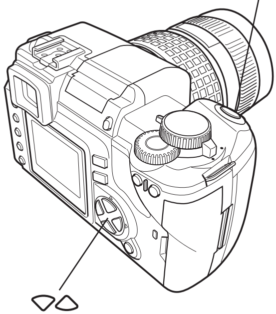
⏲ または を設定する

1 メニュー → → ［ドライブ］ → ［⏲］または［］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 を押します。
- 設定画面が表示されます。

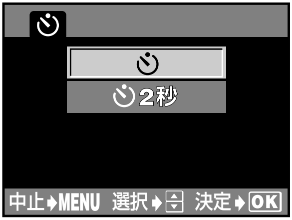
3 を押して、⏲ または の種類を選択します。

⏲ ：12秒セルフタイマー
⏲2 2秒 ：2秒セルフタイマー
 ：リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れます。
 2秒 ：2秒タイマー



セルフタイマー撮影をする

1 シャッターボタンを全押しします。
- 撮影されます。
- ピントと露出は、シャッターボタンを半押しした時点で固定されます。
- (セルフタイマー) の場合：セルフタイマランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
  (2秒セルフタイマー) の場合：セルフタイマランプが約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、**MENU**ボタンを押します。



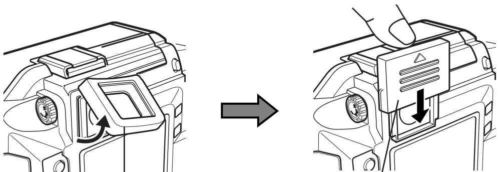
こんなときは

セルフタイマーを解除したい

→ セルフタイマーモードは撮影後も自動的には解除されません。メニューで他のドライブモードにしてください。

アイピースカバー

ファインダから顔を離して撮影するとき、ファインダに光が入らないように、アイピースカバーをファインダに取り付けます。アイカップを図のように外してからアイピースカバーを取り付けてください。



注意

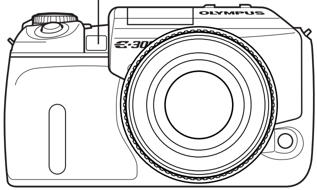
カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

リモコン撮影をする

1 カメラを三脚などでしっかりと固定します。

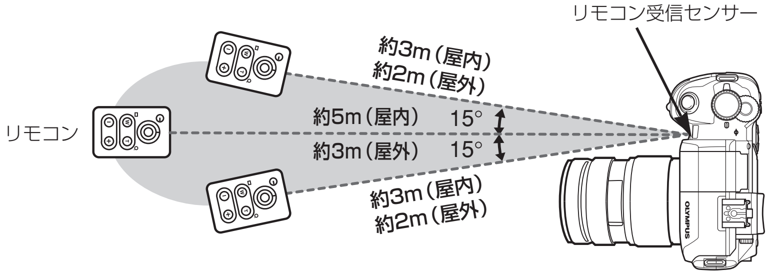
2 リモコンをカメラのリモコン受信センサーに向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

- の場合：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅して、シャッターが切れます。
  2秒の場合：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。



リモコンの有効範囲

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信窓に太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプが近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、受信しにくくなることがあります。



こんなときは

リモコンのシャッターボタンを押してもリモコンランプが点滅しない

→ リモコン受光部に強い光があたっているので、リモコン信号が届いていません。カメラに近付いて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→ リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンモードを解除したい

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。メニューで他のドライブモードにしてください。

カメラのシャッターボタンを使って撮影したい

→ リモコンモードでも、カメラのシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。

注意

- ピントが合わないときは、シャッターが切れません。
- 明るいときは、リモコンランプの点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
- リモコンを使ってのズーム操作はできません。

モノトーン撮影

特殊効果をつけて撮影します。

モノクロ ：撮影した画像を白黒で記録します。

セピア ：撮影した画像をセピア色にして記録します。

設定できるモード P A S M

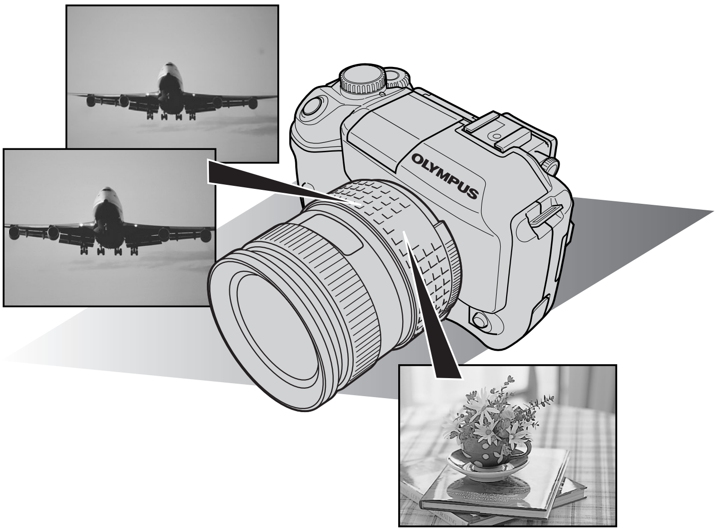
1 メニュー → 2 → ［モノトーン撮影］ → ［OFF］、［モノクロ］、［セピア］

「メニューの使い方」(P.17)

メモ

5 ピント合わせの機能

フォーカスリングを回して、ピントを合わせることをマニュアルフォーカスといいます。初心者がマニュアルフォーカスに慣れるには、時間がかかります。デジタルカメラでは、マニュアルフォーカスでピントをあわせるだけではありません。ボタン操作でAFフレームやフォーカスモードを選べて、いろいろなピント合わせが可能です。
動く被写体のシャッターチャンスをブレなく捕らえるには、シャッター速度が大切ですが、ピントの合わせ方でも対応できます。フォーカスモードをコンティニュアスAFにすると、被写体の動きを予測してピントを合わせます。



AFフレームの選択 [･･･]

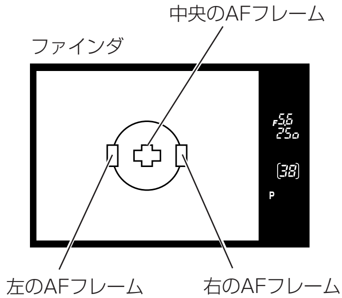
通常はファインダ内の3ケ所のAFフレームで被写体までの距離を測定し、最適なポイントを選択します。1つのAFフレームだけを選択することもできます。

[･･･]（オート）：3つのAFフレームを使ってピントを合わせます。（初期設定）

[･]：左のAFフレームを使ってピントを合わせます。

[･]：中央のAFフレームを使ってピントを合わせます。

[･]：右のAFフレームを使ってピントを合わせます。

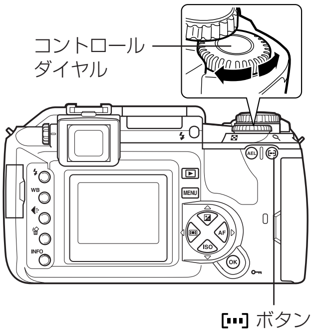


設定できるモード 

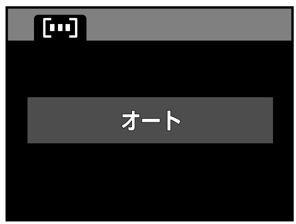
1 **[･･･]（AFフレーム）ボタンを押します。**
- 現在の設定が表示されます。

2 **選択したい設定が表示されるまでコントロールダイヤルを回します。**

3 **撮影します。**
- 選択したAFフレームが点灯します。



液晶モニタ

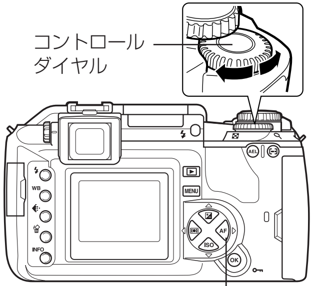


スーパーコンパネが消えているとき

フォーカスモード

フォーカスモードには、S-AF（シングルAF）・C-AF（コンティニュアスAF）・MF（マニュアルフォーカス）があります。

設定できるモード P A S M



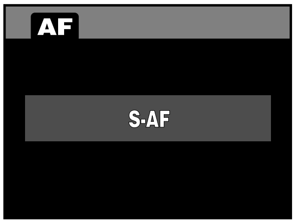
1 AF（フォーカスモード）ボタンを押します。

- 現在の設定が表示されます。

2 選択したい設定が表示されるまでコントロールダイヤルを回します。

☞ S-AF（シングルAF）モードでの撮影（P.72）、
S-AFモードとMFモードの併用［S-AF+MF］(P.73)、
C-AF（コンティニュアスAF）モードでの撮影（P.74）、
マニュアルフォーカス（MF）（P.75）

液晶モニタ



スーパーコンパネが消えているとき

S-AF（シングルAF）モードでの撮影

シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。
ピントがうまく合わなかったときは、シャッターボタンを離してもう一度半押ししてください。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。

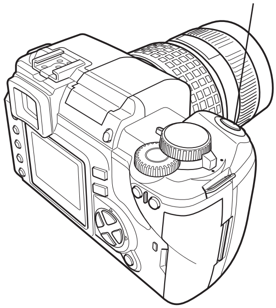


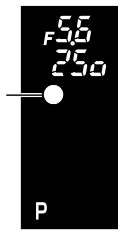
設定できるモード P A S M

1 シャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。

2 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。





こんなときは

AFしても手動で微調整したい

☞「S-AFモードとMFモードの併用 [S-AF+MF]」（P.73）

S-AFモードとMFモードの併用［S-AF+MF］

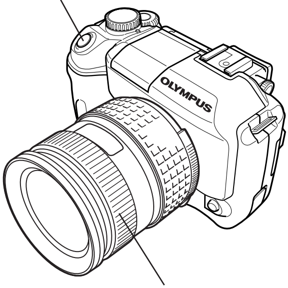
S-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。

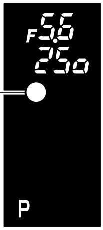
設定できるモード P A S M

1 **シャッターボタンを半押ししてAFします。**
- ピントが合うと合焦マークが点灯します。

2 **シャッターボタンを半押ししたままで、フォーカスリングを使って、ピントの微調整をします。**

3 **撮影します。**





注意

フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

C-AF（コンティニュアスAF）モードでの撮影

シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。被写体が動いている場合は、予測してピントを合わせます（動体予測）。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。

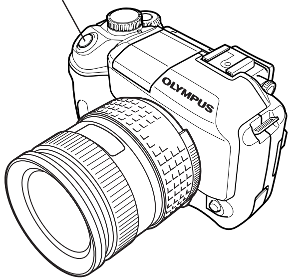




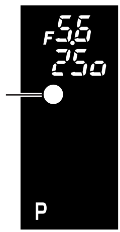
設定できるモード P A S M

1 シャッターボタンを半押しし続けます。

- 被写体にピントが合い、露出が固定されると、ファインダに合焦マークが点灯します。
- ピントが合ってもAFフレームは点灯しません。
- カメラはピント合わせの動作を繰り返し、被写体が移動したり構図を変えても、ピントを追います。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。3回目のAFからは、ピントが合っても音はしません。



2 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。



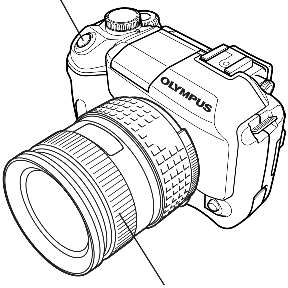
マニュアルフォーカス（MF）

ファインダをのぞきながら任意の位置に手動でピント合わせをすることができます。

設定できるモード P A S M

1 **フォーカスリングを使って、ピントを合わせます。**

2 **撮影します。**



フォーカスリングの回転方向

フォーカスリングの回転方向を選択し、ピントの移動方向を切り替えることができます。☞「フォーカスリング」（P.118）

フォーカスエイド

フォーカスリングを回してピントが合うと、合焦マークが点灯します。3点のAFフレームを選択している場合は、中央のAFフレームでのピントが選択されます。

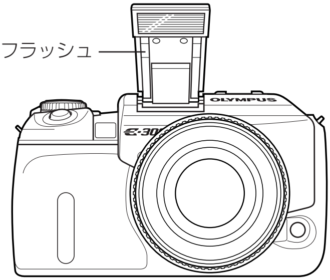
AFイルミネータ

［AFイルミネータ］を［ON］にしておくと、暗いところで、オートフォーカスが働かないところでは、フラッシュが発光します。この機能を使うには、フラッシュを起こしておきます。

設定できるモード P A S M (ポートレート) (風景) (マクロ) (スポーツ) (夜景)

AFイルミネータ を設定する

1 メニュー→ 🔧1 ［AFイルミネータ］→ ［OFF］、［ON］
☞「メニューの使い方」（P.17）



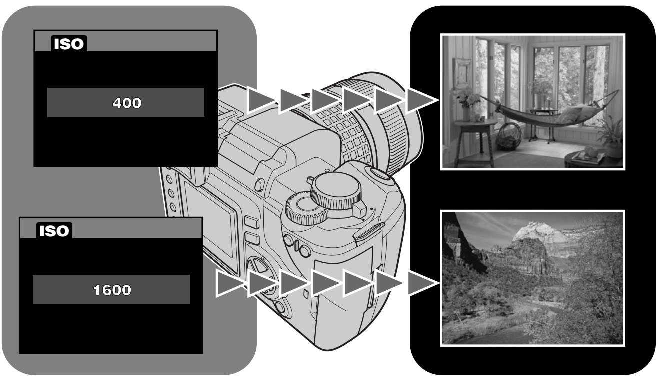
フラッシュを AFイルミネータとして使う

1 フラッシュを起こします。☞P. 50

2 撮影します。

6 露出・色・画像

シャッターボタンを押すだけの撮影から一歩進んでみましょう。
個性的な写真を目指して、画像・明るさ・露出に関する調整に挑戦してみましょう。これらの設定をどう組み合わせていくかで、画像の仕上がりに差が出ます。
たとえば、室内で雰囲気をいかした撮影をしたい場合や、フラッシュを使うと光が反射する被写体の場合、やむを得ずフラッシュなしで撮影して、ブレのある画像になってしまった ― こんなことはよくあります。
ISO感度を高感度に設定することで、ブレのない画像が撮れるのです。
よりきれいに撮りたいときは小さな数値に、明るさの足りないところは大きな数値に、といった使い分けができるのです。
写真の雰囲気を変えたいときは、露出補正をします。日陰の緑や山の紅葉など明るさを抑えて撮影したいときは、マイナス補正をしてください。
色づく紅葉の鮮やかな色彩が色濃く写し出され、見た目どおりのきれいな色を引き出すことができます。



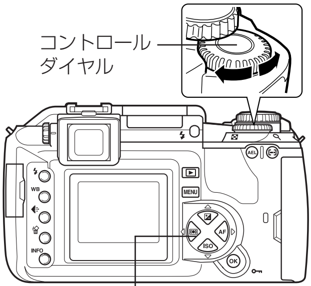
明るさを測る範囲を変える—測光モード ESP

本機はデジタルESP測光、中央重点平均測光、スポット測光の3つの測光方式を備えています。撮影するシーンに応じて選択してください。

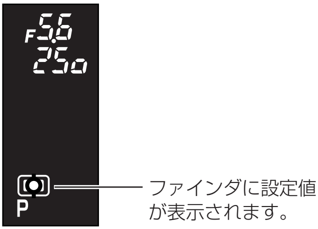
設定できるモード P A S M

1 （測光）ボタンを押します。
- 現在の設定が表示されます。

2 選択したい設定が表示されるまでコントロールダイヤルをまわします。



ファインダ





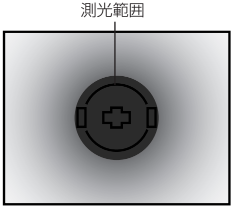
スーパーコンパネが消えているとき

■ デジタルESP測光　ESP

画面の中央部と周辺部を個別に測光しそれぞれの輝度、輝度差などを考慮して露出を演算します。被写体が逆光下にあったり、強いスポット光を浴びているなど、中央と周辺に大きな輝度差があるときは、デジタルESP測光をおすすめします。

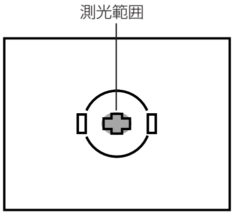
■ 中央重点平均測光

画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。周辺部の輝度を露出に影響させたくないときに使います。



■ スポット測光

画面中央の狭い範囲を測光します。デジタルESP測光で補正しきれないような強い逆光シーンなどに適しています。



画像の明るさを変える―露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に－に補正すると効果的です。露出は±5.0EVの範囲で補正できます。露出補正をするときは、中央重点平均測光（[◎]）かスポット測光（[•]）でお使いください。補正ステップは1/3EV、1/2EV、1EVから選択できます。

☞「露出ステップ」(P.116)



－2.0EV　±0　＋2.0EV

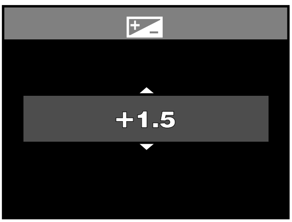
設定できるモード P A S

1 （露出補正）ボタンを押します。

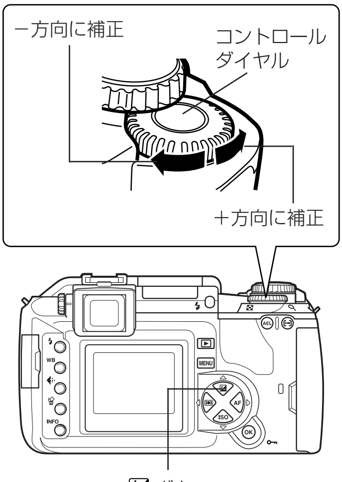
- 露出補正インジケータが表示されます。

2 コントロールダイヤルをまわして露出補正を行います。

- ＋方向に補正：＋5.0EVまで設定できます。
  －方向に補正：－5.0EVまで設定できます。

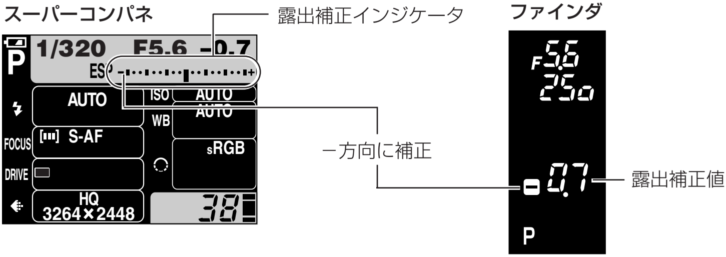


スーパーコンパネが消えているとき



例：－1/3段刻みの露出補正をしている場合

[±] ボタン押します。
設定したい露出補正値が表示されるまでコントロールダイヤルをまわします。

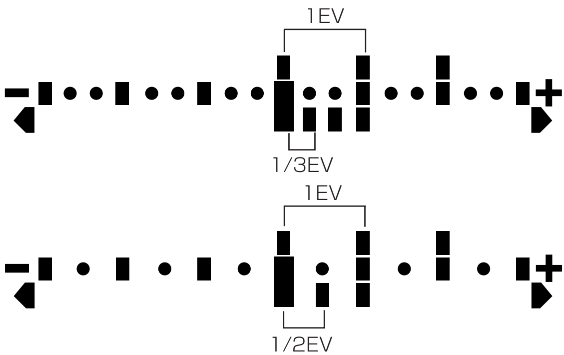


露出補正が0の場合は、露出補正インジケータは消えます。

こんなときは

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで1/3EV、1/2EV、1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P.116)



- 補正範囲が露出補正インジケータをオーバーしているときは、－や+表示が赤になります。

注意

Mモードまたは**SCENE**モードでは、[±] ボタンは効きません。

6 露出・色・画像

あらかじめ露出を固定する―AEロック　AEL

AELボタンを使用すると、測光して検出した露出値を固定（AEロック）できます。露出を撮影する構図とは別に決めたいときに使います。
通常は、シャッターボタンの半押しでAF（ピント）とAE（露出値）の両方が固定されますが、**AEL**ボタンを押して露出のみ固定することができます。このカメラでは、AEロック時の測光モードをオート、ESP、中央重点、スポットから選択することができます。☞「AEL測光モード」（P.116）

設定できるモード P A S SCENE

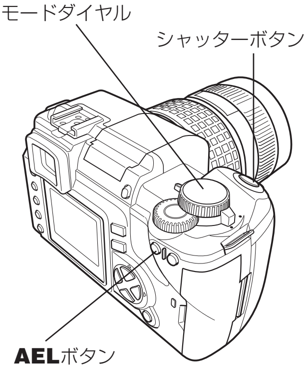
1 測光したい被写体にカメラを向けます。

2 AEL（AEロック）ボタンを押し続けます。

- 露出値が固定されます。
- ファインダに AEL が表示されます。

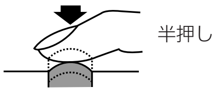
ファインダ





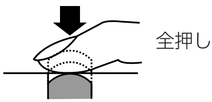
3 構図を決めて、AELボタンを押したままシャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定されます。



4 シャッターボタンを全押しします。

- AELボタンをはなすと、AEロックが解除されます。



明るさに合わせた設定—ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ画像が粗くなります。
あらかじめメニューで[ISO感度拡張]を設定すると、800・1600の高感度も選択できます。☞「ISO感度拡張モードの設定」(P.84)

オート（AUTO）・100・200・400・800・1600

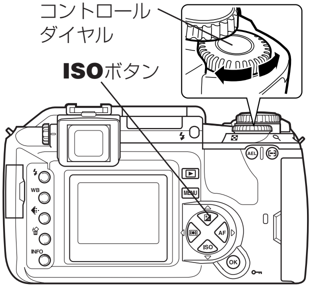
感度を低くすると、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。
（網かけ）ISO感度拡張モード設定時に選択可能

ISO感度の設定

設定できるモード P A S M

1 ISOボタンを押します。
- 現在の設定が表示されます。

2 選択したい設定が表示されるまでコントロールダイヤルをまわします。





スーパーコンパネが消えているとき

注意

ISO感度がオートに設定されているとき、通常はISO100ですが、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。

ISO感度拡張モードの設定

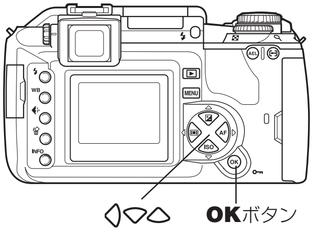
ISO800と1600が使えるように設定します。

設定できるモード P A S M [ポートレート] [風景] [マクロ] [スポーツ] [夜景]

1 メニュー→ 1 →［ISO感度拡張］→［ON］

☞「メニューの使い方」（P.17）

2 **OK**ボタンを押します。



画像の色合いを調整する―ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているときと、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。フィルムを使うカメラでは、光源によってフィルムを使い分けたり、フィルタを使って調節しますが、デジタルカメラでは、デジタル演算処理により白が白らしくなるように調節します。この機構をホワイトバランスといいます。ホワイトバランスには、3つの設定があります。

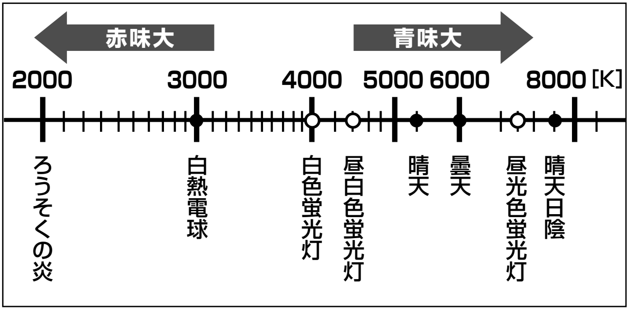
オートホワイトバランス
自動的に撮影した画像の白い部分を判断して全体の色のバランスを調節します。ほとんどの場合はこのモードで十分です。ただし、画面に白に近い色がまったくない場合は、ホワイトバランスが正しく設定されないことがあります。このようなときは、プリセットホワイトバランスやワンタッチホワイトバランスを設定してください。

プリセットホワイトバランス
光源の色温度でホワイトバランスを設定します。夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。さらにプリセットホワイトバランスを積極的に使うことで、様々な色調を楽しむこともできます。
選択できる色温度は次のとおりです：3000・3300・3600・3900・4000・4300・4500・4800・5300・6000・6600・7500
その他、4種類のプリセット色温度をメニューで選択し、プリセットホワイトバランスとして使うこともできます。☞「カスタムWB設定」(P.92)

ワンタッチホワイトバランス **☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P.89)**
カメラを白紙などの白い物に向けて、ホワイトバランスを設定します。設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。

色温度について

物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。
これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。
このカメラのプリセット値4000Kと4500K、6600Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。



こんなときは

フラッシュを使うとき

→ フラッシュを使って撮影するときは、オートホワイトバランスで撮影することをおすすめします。
フラッシュは、プリセットホワイトバランスで撮影するときは、6000Kに設定してください。また、フラッシュを使った撮影では、条件によって色温度が変わります。撮影したら再生して色味を確認してください。

注意

各光源として設定された色温度は目安です。（実際の晴天が5300K、蛍光灯が4000K にしかならないということではありません）

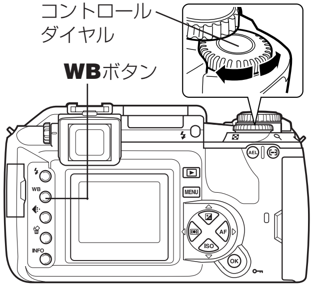
ホワイトバランスの設定　WB

ホワイトバランスを光源の色温度で選択します。

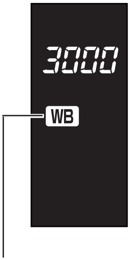
設定できるモード　P　A　S　M

1 **WB（ホワイトバランス）ボタンを押します。**

2 **選択したい設定が表示されるまでコントロールダイヤルをまわします。**



ファインダ



オート（AUTO）以外の設定にした場合、表示されます。



スーパーコンパネが消えているとき

こんなときは

白くないものまで白くなった

→ オートホワイトバランスでは、画面に白に近い色がまったくない場合は、正しいホワイトバランスが測定されないことがあります。プリセットホワイトバランスかワンタッチホワイトバランスを試してください。

液晶モニタ	適した撮影シーン
AUTO	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）
3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
3600K	電球に照らされている被写体を電球の光の雰囲気を出して撮るとき
4000K	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
4500K	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
6600K	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
6000K	曇天の日に屋外で撮るとき（フラッシュを使用して撮るとき）
7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
CWB1	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は2000Kに設定されています。
CWB2	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は2500Kに設定されています。
CWB3	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は8000Kに設定されています。
CWB4	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は10000Kに設定されています。「カスタムWB設定☞P.92」
	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は5300Kに設定されています。☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P.89)

ワンタッチホワイトバランスの設定

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白い紙などにカメラを向けてホワイトバランスを測定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。
自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた被写体の撮影などに有効です。

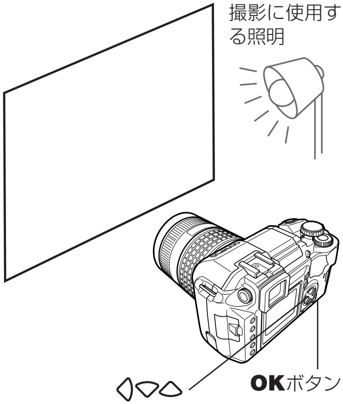
設定できるモード P A S M

1 メニュー→ → [ ]
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 ◁ を押します。
- [ワンタッチホワイトバランス] 画面が表示されます。

3 [実行] を選択し、画面が表示された状態で、カメラを白い紙に向けます。
- 紙はファインダいっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

4 適正露出が得られるように、絞り・シャッター速度を設定します。



5 OKボタンを押します。
- ホワイトバランスが登録されます。
- 登録されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスのひとつとして、カメラに記憶されます。電源を切っても解除されません。☞「ホワイトバランスの設定」(P.87)



こんなときは

OKボタンを押したら、[不適切なデータです　撮り直してください］と表示された

→ 白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、ホワイトバランスは登録できません。
再度、手順1からやり直してください。

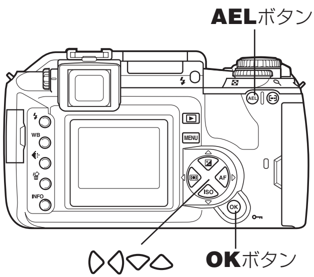
WB補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

設定できるモード P A S M

1 メニュー→ 1 → ［WB補正］
☞「メニューの使い方」（P.17）

2 ◁ を押します。
- WB補正したいホワイトバランスモードを選択する画面が表示されます。



3 ▽△ を押して、WB補正したいホワイトバランスモードを選択します。
◁ を押します。
- WB補正の設定画面が表示されます。



4 現在のホワイトバランスの値に対し、▽を押すたびに青味がかり、△を押すたびに赤味がかった画像になります。**OK**ボタンを押すと、補正値が決定されます。
- ホワイトバランスはBLUE方向、RED方向とも、それぞれ7段階の補正が可能です。



5 試し撮りをするために、被写体にカメラを向けます。

6 **AEL**ボタンを押します。
- 設定したホワイトバランスの条件で、撮影したサンプル画像が表示されます。
- 補正バーは、設定した補正値を示しています。

7 サンプル画像を確認したら、**OK**ボタンを押します。
- **OK**ボタンを押すと、WB補正を終了します。

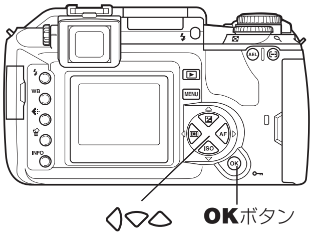
カスタムWB設定

現在設定されているカスタムホワイトバランスを、設定したい色温度に変更することができます。

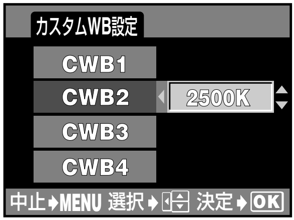
設定できるモード P A S M

1 メニュー→ ⅰ1 →［カスタムWB設定］
☞「メニューの使い方」（P.17）

2 ◁ を押します。
- ［カスタムWB設定］画面が表示されます。



3 ▽△ を押して、［CWB1］、［CWB2］、［CWB3］、［CWB4］から選択し、◁ を押します。



4 ▽△ で設定されているホワイトバランスを補正します。

5 **OK**ボタンを押します。
- 続けて他のカスタムホワイトバランスを設定することができます。

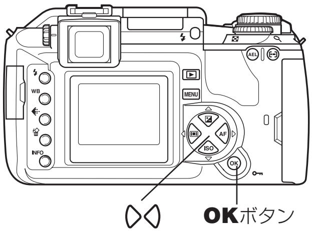
シャープネス

画像の鮮鋭度を調整します。

設定できるモード ▶ P A S M

1 メニュー→ 2 ［シャープネス］
☞「メニューの使い方」（P.17）

2 ◁ を押します。
- 設定画面が表示されます。



3 ▷◁ を押して ♦ を移動します。
Hi方向に調整：
◁ を押すと、画像の輪郭がシャープになり、鮮やかになります。プリントなどの鑑賞用に適しています。
Lo方向に調整：
▷ を押すと、画像の輪郭がソフトになります。パソコンでの加工に適しています。



4 **OK**ボタンを押します。
- 調整値が決定されます。

! 注意

Hiに設定すると、画像が粗く見えることがあります。

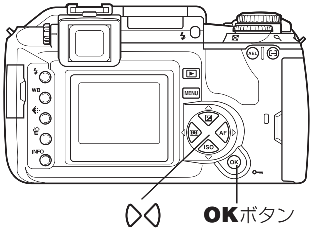
コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調整します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

設定できるモード P A S M

1 メニュー→ 2 →［コントラスト］
☞「メニューの使い方」（P.17）

2 ◁ を押します。
● 設定画面が表示されます。



3 ▷◁ を押して ♦ を移動します。
Hi方向に調整：
◁ を押すと、明暗の差がより大きくなり、メリハリのある画像になります。
Lo方向に調整：
▷ を押すと、明暗の差が小さくなり、比較的柔らかい印象の画像になります。パソコンでの加工に適しています。



4 OKボタンを押します。
● 調整値が決定されます。

彩度

画像の色の鮮やかさを設定します。

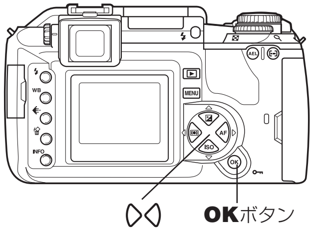
設定できるモード ▶ P A S M

1 メニュー→ 2 →［彩度］

☞「メニューの使い方」（P.17）

2 ◁ を押します。

● 設定画面が表示されます。



3 ▷◁ を押して、◆ を移動します。

Hi方向に調整：

◁ を押すと、鮮やかな色合いになります。

Lo方向に調整：

▷ を押すと、落ち着いた色合いになります。



4 OKボタンを押します。

● 調整値が決定されます。

階調

画像全体の明度を選びます。被写体のイメージに合わせて、明るいところをより明るく、暗いところをより暗く表現したいときに最適です。



［ハイキー］：
明るい画像に仕上がります。

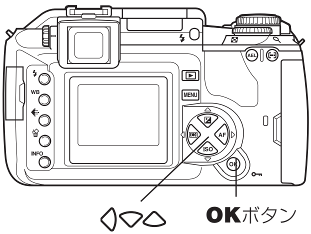


［ローキー］：
陰影のある画像になります。

設定できるモード P A S M

1 メニュー→ 2 →［階調］→［標準］、［ハイキー］、［ローキー］
「メニューの使い方」（P.17）

2 **OK**ボタンを押します。



長秒時の画像のノイズを軽減する［ノイズリダクション］ NR

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。ノイズリダクションをONに設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。
長秒時撮影時の画像のノイズについて☞「画像のノイズについて」(P.43)


ノイズリダクション：オフ

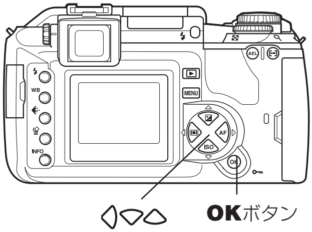

ノイズリダクション：オン

設定できるモード P A S M

1 メニュー→ 2 →［ノイズリダクション］→［ON］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OKボタンを押します。**

3 **撮影します。**
- 撮影後にノイズを取り除く動作をします。
- 処理中は、カードアクセスランプが点滅します。カードアクセスランプが消えるまで、次の撮影はできません。
- 処理中は、ファインダ内でBusyと表示されます。



OKボタン

注意

- SCENEの、、、、モードでは、ノイズリダクションはONに固定されます。
- ノイズリダクションの設定がONのとき、連写はできません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

記録する画像の色空間を設定する［カラー設定］ sRGB, Adobe RGB

撮影した画像を、モニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。設定したカラー空間は、画像のファイル名に表示されます。
☞「ファイルネーム」(P.121)

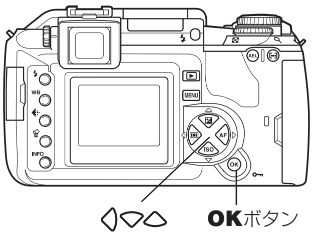
Pmdd0000.jpg
- P : sRGB
- _ : Adobe RGB

[sRGB] ： Windowsの標準の色空間。
[Adobe RGB] ： Adobe Photoshopで設定できる色空間。

設定できるモード P A S M SCENE

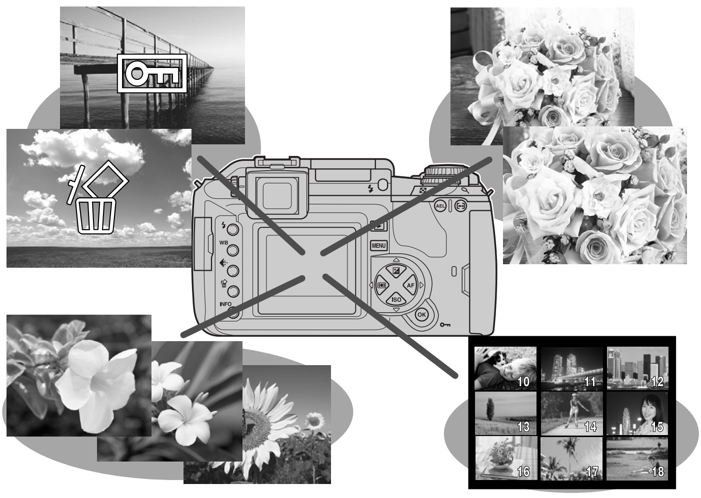
1 メニュー → 2 → ［カラー設定］ → [sRGB]、[Adobe RGB]
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。



7 画像の再生で使える機能

デジタルカメラのメリットは、なんといっても撮影した画像をその場ですぐに確認できること。「手ぶれしている」「ピントが合っていない」など、フィルムカメラでは現像してみなければ気づかない失敗も、デジタルカメラなら即座に撮り直しができます。失敗作はすぐ消去してしまえば、無駄なくたくさんの撮影が可能に。逆に、大切な画像を間違って消さないよう、プロテクトをかけることもできます。
撮った画像は、好みに合わせてモノクロやセピアにしたり、部分的にトリミングしたり、目的に合わせ画像サイズを変更したり。
これらのメリットを活かし、思う存分デジタルカメラを楽しみましょう。



静止画を見る

以下が画像を見るための基本的な手順です。
撮影した画像を見たり、編集する方法はいろいろありますが、どの方法も以下の手順1をしてから、各再生機能をおこなってください。

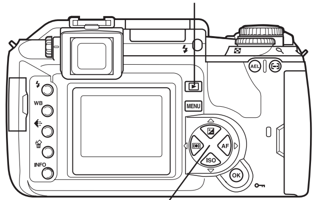
1コマ再生

1 ▶（再生）ボタンを押します。

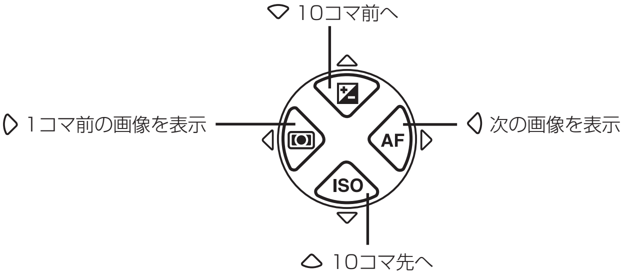
- 1分以上何も操作をしないと、カメラは液晶モニタを消灯して動作を停止します。その後約1時間何も操作をしないと自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れなおしてください。

最後に撮影した画像が表示されます。





2 十字ボタンで表示したい画像を選択します。



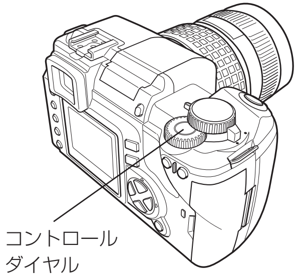
- シャッターボタンを半押しすると、撮影に戻れます。

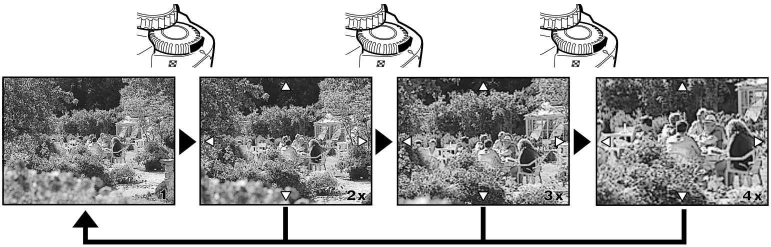
注意

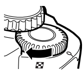
ACアダプタを使っているときは、カメラの電源は自動的に切れません。

クローズアップ再生

１コマ再生している画像を拡大表示します。画像の細部の確認に便利です。
コントロールダイヤルをQ側に回すたびに2〜10倍と拡大倍率が変化します。





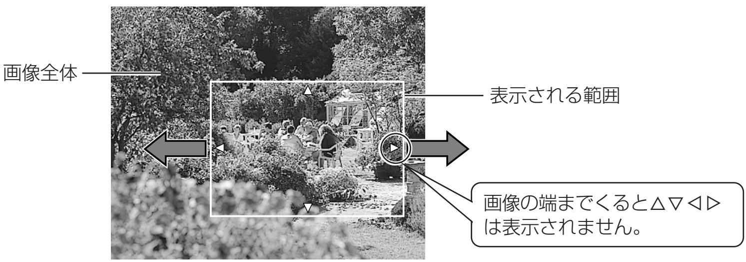


側にダイヤルを回すと、画像が元のサイズに戻ります。

画像をずらして見る

クローズアップ再生中に、画像を水平方向や垂直方向にずらして表示することができます。

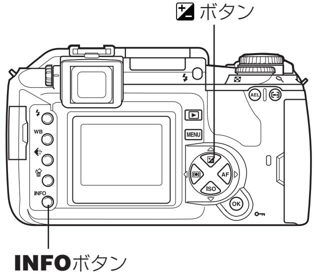
1 クローズアップ再生中に、画像をずらしたい方向と同じ十字ボタンを押します。



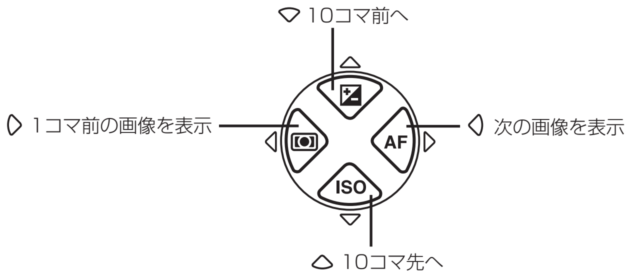
他の画像を見る

クローズアップ再生中に、他の画像も見ることができます。

1 **OKボタンを押します。**



2 **十字ボタンを使って見たい画像を選択します。**



3 **さらに画像を拡大したり画像を元のサイズに戻すには、再度OKボタンを押します。**

クローズアップ位置を表示する

画像のどの部分をクローズアップしているかを表示することができます。

1 **クローズアップ再生中に、INFOボタンを押します。**

- クローズアップしていたところが、枠で囲まれて表示されます。ボタンを離すと枠が消えます。



インデックス再生 ▦

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。

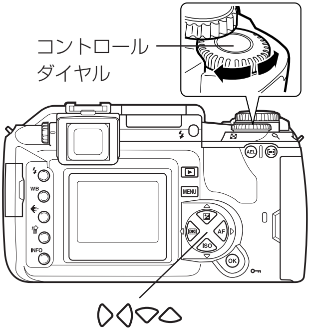
コントロールダイヤルを▦側に回すたびにコマ数が4、9、16コマと変化します。

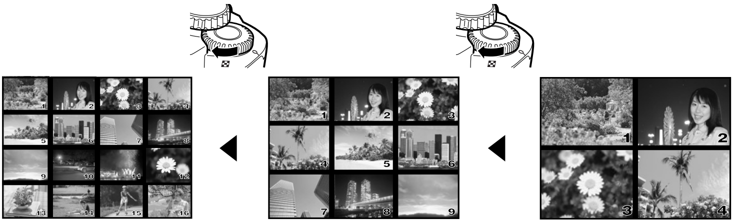
▷ ：前のコマへ移動

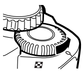
◁ ：次のコマへ移動

▽ ：左上の画像の前のインデックスを表示

△ ：右下の画像の次のインデックスを表示



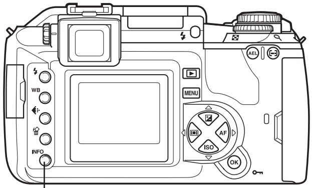




🔍 側にダイヤルを回すと、1コマ再生に戻ります。

情報表示 INFO

画像の詳細情報を表示することができます。また、画像の輝度情報を、ヒストグラムやハイライト表示で図示することもできます。



INFOボタン

1 **選択したい情報が表示されるまで、INFO（情報表示）ボタンを繰り返し押します。**

● この設定は記憶され、次回表示する際も、同じ表示がされます。

画像のみ



情報表示1



情報表示2





ヒストグラム表示



ハイライト表示



撮影情報表示

情報表示1

コマ数・プリント予約・プロテクト



情報表示2

プリント予約・プロテクト・画質モード・画像サイズ・圧縮率・日時・ファイル番号

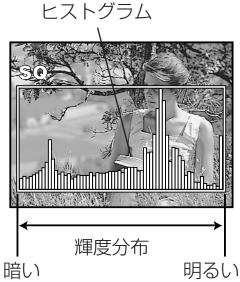


ヒストグラム表示

撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示します。明るさをデータとして確認することで、より厳密な露出を次の撮影に反映できます。

ヒストグラムの活用

ヒストグラムは白トビや黒つぶれのチェックができます。ヒストグラムの右端付近が著しく突出したグラフの場合は、白トビの可能性があり、逆に左端付近が著しく突出したグラフの場合は、黒つぶれの可能性があります。露出を補正するか、再度撮影してください。



ハイライト表示

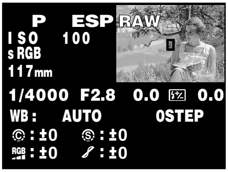
撮影した画像の露出オーバーな部分を点滅して表示します。



撮影情報表示

露出モード、測光モード、画質モード、ISO感度、カラー設定／彩度、焦点距離などを表示します。

☞「液晶モニタ内の表示（再生時のみ）」(P.195)

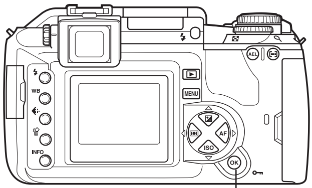


画像を連続自動再生する

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。表示している画像から、順に約 5 秒間ずつ表示されます。インデックス表示で自動再生することができます。そのときのコマ数は1、4、9、16コマから選択できます。

1 メニュー→ [▶] → [自動再生] → [□1]、[⊞4]、[⊞9]、[⊞16]
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押すと自動再生がスタートします。



OKボタン

3 **OK**ボタンを押すと停止します。



⊞4 を選択したとき

> **注意**
>
> 電池を使用して再生している場合は、30分で自動的に電源が切れます。

7

画像の再生で使える機能

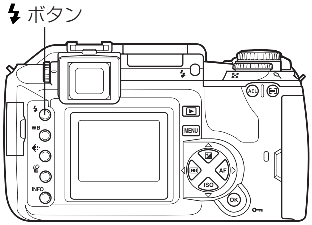
回転再生

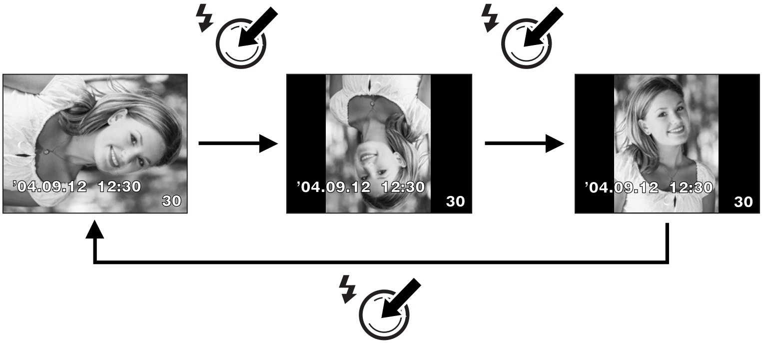
撮影した画像を回転して縦位置表示することができます。縦位置で撮影したときなどに便利です。

1 メニュー→ [▶] → [回転再生] → [ON]
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 ⚡（フラッシュモード）ボタンを押します。

- ⚡ ボタンを押すたびに、画像が時計方向に90 度ずつ回転します。
- 回転表示した状態は、カードに記録されます。





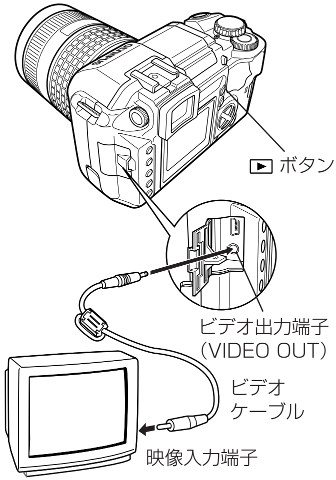
テレビで画像を再生する

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。

1 **カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルを図のように接続します。**

2 **テレビの電源を入れ、ビデオ入力に設定します。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。**

3 **カメラの電源を入れ、▶（再生モード）ボタンを押します。**



注意

- テレビとカメラを接続する場合は必ず付属のビデオケーブルを使用してください。
- カメラのビデオ信号がお使いのテレビの映像信号に合っているかどうかを確認してください。 ☞「TVにつなぐ前に［ビデオ出力］」(P.126)
- ビデオケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- お使いのテレビによっては再生画像が画面中央からずれることがあります。

静止画編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。画像のデータ形式によって、可能な編集が決定します。

RAWデータ形式で記録した画像の編集

RAWデータ形式の画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、TIFFやJPEGの画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。
この操作を行う時点のカメラの設定で、画像が処理されます。編集するときに他の設定を使いたい場合、あらかじめカメラの設定を変更しておきます。

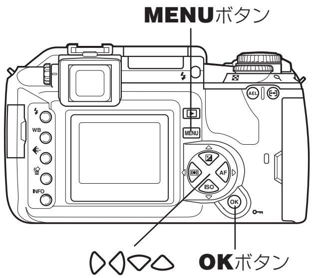
JEPG/TIFF形式で記録した画像の編集

モノクロ作成	白黒に変換します。
セピア作成	セピア色に変換します。
リサイズ	画像サイズを1280×960、640×480、または320×240に変換します。

1 **メニューから→ ▶ → [編集]**
- 画像選択の画面が表示されます。

「メニューの使い方」(P.17)

2 **◁▷ を押して、画像を選択します。OKボタンを押します。**
- 画像のデータ形式をカメラが認識します。





RAWデータ形式の画像



JPEG/TIFFデータ形式の画像

3 ▽△ を押して項目を選択します。**OK**ボタンを押します。
JPEG/TIFFデータ形式の画像で［リサイズ］を選択する場合は、手順4へ進みます。
［リサイズ］以外の項目を選択する場合は、手順5へ進みます。



JPEG/TIFFデータ形式の画像を編集する場合



RAWデータ形式の画像を編集する場合

4 ［リサイズ］を選択する：
▽△ を押して画像サイズを選択します。**OK**ボタンを押します。

5 他の画像を編集するときは、▷◁▽△ を押して画像を選択します。
● 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押して、メニューに戻ります。

注意

TIFFの画像は、SHQの画像として保存されます。

7 画像の再生で使える機能

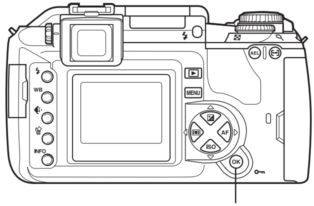
画像にプロテクトをかける－誤消去防止

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1 **プロテクトをかけたい画像を再生します。**☞P.100

2 **On（プロテクト）ボタンを押します。**

● 画面に On が表示されます。



On ボタン

プロテクトマーク



プロテクトを解除するには

プロテクトされている画像を再生し On ボタンを押します。

注意

- カードをフォーマットした場合は、プロテクトされている画像でも消去されます。
- プロテクトされた画像は回転再生できません。

画像を消去する

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去と、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去があります。

注意

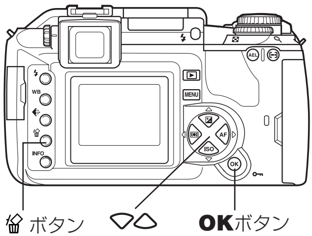
- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクトをかける－誤消去防止」(P.111)

1コマ消去

1 **消去したい画像を再生します。**

2 **（消去）ボタンを押します。**
- ［1コマ消去］画面が表示されます。

3 **を押して［実行］を選択し、OKボタンを押します。**





1コマ消去画面

消去メニュー設定

メニューの［消去メニュー設定］で、初期設定のカーソルの位置を、［実行］に設定できます。☞「消去メニュー設定」（P.120）

7

画像の再生で使える機能

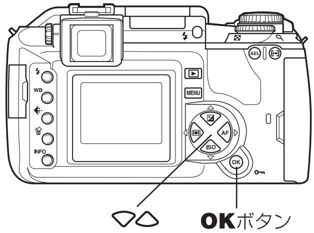
全コマ消去

1 **メニュー→ 2 →［カードセットアップ］**
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **▷を押します。**
● ［カードセットアップ］画面が表示されます。

3 **▽△ を押して、［全コマ消去］を選択します。OKボタンを押します。**
● ［全コマ消去］画面が表示されます。

4 **▽△ を押して、［実行］を選択します。OKボタンを押します。**
● 全コマ消去が実行されます。





カードセットアップ画面



全コマ消去画面

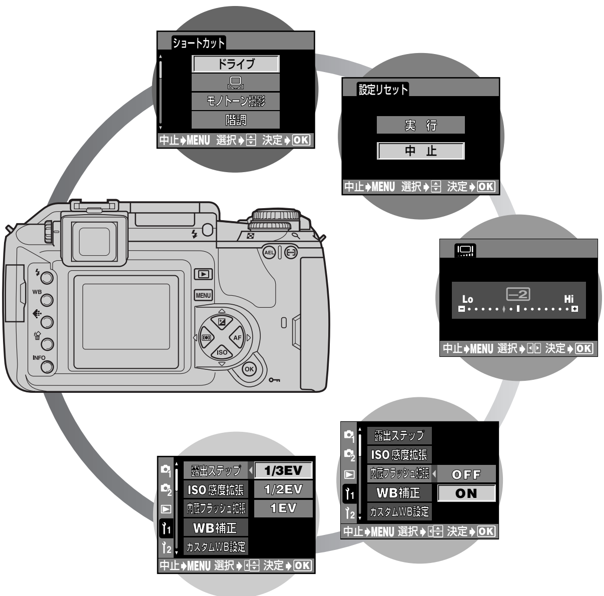
消去メニュー設定

2 メニューの［消去メニュー設定］で、初期設定のカーソルの位置を、［実行］に設定できます。☞「消去メニュー設定」(P.120)

メモ

8 設定・機能のカスタマイズ

デジタルカメラの良さのひとつに、自分の使い勝手に合わせてカメラをカスタマイズできる点があげられます。「よく使う機能をボタンで呼び出したい」「シャッター速度や露出補正値の変更ステップを変えて、自分の思う値にもっと近付けたい」「フラッシュの発光量を弱めにしたいけど、毎回設定をするのが面倒」― そんなあなたにぴったりな機能をここでは紹介します。機能を上手に活用してカメラをより使いやすくしてください。



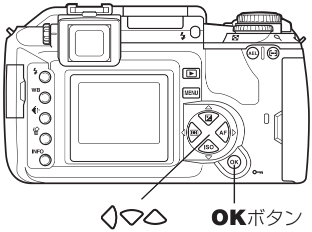
AEL測光モード

AEL（AEロック）ボタンを押して露出を固定するときに、自動的にメニューで設定した測光方式で測光するようにします。

設定できるモード P A S M

1 メニュー→🔧1 →［AEL測光モード］→［オート］、［ESP］、［中央重点］、［スポット］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。



露出ステップ

シャッター速度・絞り値・露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを切り替えます。

設定できるモード P A S M

1 メニューから🔧1 →［露出ステップ］→［1/3EV］、［1/2EV］、［1EV］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。

内蔵フラッシュ拡張

内蔵フラッシュを、固定した発光量で発光させることができます。ONに設定すると⚡（フラッシュモード）ボタンで設定できるメニューにFULL、1/4、1/16、1/64発光の選択が加わります。

設定できるモード P A S M

1 メニュー→🔧1［内蔵フラッシュ拡張］→［ON］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。

OKボタン設定

OKボタンを使って機能の設定が出来るように登録することができます。

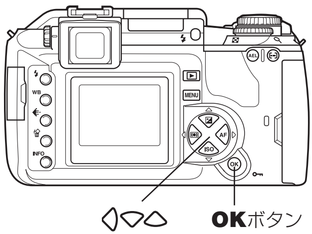
[OFF]　：通常の**OK**ボタンとしての機能のみ
[ショートカット]：撮影メニューの1つを登録します。使用頻度の高い機能を登録すると、その機能をダイレクトに使えるので便利です。
[プレビュー]：プレビュー機能を登録します。**OK**ボタンを押すと、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。
[AF/MF]：AFモードとMFモードの切り替え操作を行います。AFモード時に、**OK**ボタンを押しながら手動でピント合わせをしたり、MFモード時にAFすることができます。

設定できるモード P A S M



1 メニュー→ 1 →［OKボタン設定］→［OFF］、［ショートカット］、［プレビュー］、［AF/MF］
☞「メニューの使い方」（P.17）

2 **OK**ボタンを押します。



［ショートカット］を選択した場合

3 ◁ を押します。
- ［ショートカット］画面が表示されます。

［ショートカット］で登録可能な機能：
ドライブ（☞P.58）、ワンタッチホワイトバランス（☞P.89）、モノトーン撮影（☞P.67）、階調（☞P.96）、彩度（☞P.95）、コントラスト（☞P.94）、シャープネス（☞P.93）、WBブラケット撮影（☞P.63）



4 ▽△ を押して、設定する機能を選択します。**OK**ボタンを押します。

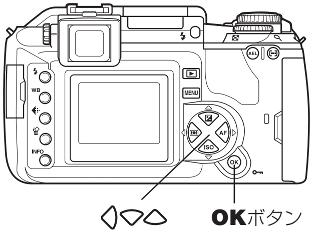
レンズリセット

カメラの電源を切ったときに、レンズのフォーカス位置をリセット（無限遠）します。

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→ʈ2 →［レンズリセット］→［ON］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。



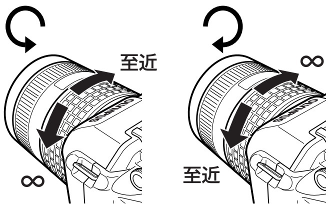
フォーカスリング

フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り替えることができます。

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→ʈ2 →［フォーカスリング］→［↺］、［↻］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。

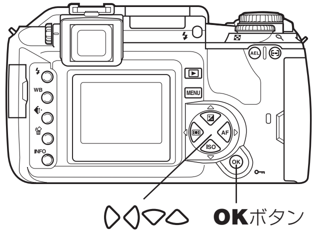


日付・時刻を設定する

日時の情報は画像とともに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。

設定できるモード P A S M [ポートレート] [風景] [マクロ] [スポーツ] [夜景] SCENE

1 メニュー→ [設定2] →［日時設定］
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 ◁ を押します。
- 日時設定画面が表示されます。

3 ▽△ を押して日付の順序を、“年-月-日”、“月-日-年”、“日-月-年”から選択し、◁ を押します。
- 以下の手順は“年-月-日”に設定した場合の説明です。



4 △▽ を押して年の項目を入力し、◁ で月の項にすすみます。
- ▷ を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- “年”の上 2桁は固定されています。

5 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。
- 時刻は24時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。



6 **OK**ボタンを押します。
- 0秒の時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、正確に時刻を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

注意

日時の設定は、内蔵電池によって約3ヶ月間保持されます。ただし、カメラの動作状態によっては、これより短い場合があります。カメラの電池をしばらくはずしたときは、日時の設定を確かめてください。内蔵電池はカメラの電池により約1日で充電されます。

カメラ設定を解除する［設定リセット］

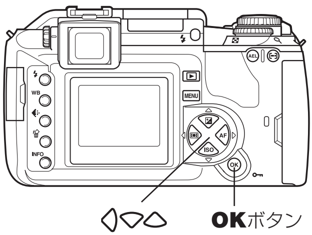
撮影メニューで変更した設定の内容は、電源を切ってもそのまま保持されています。このリセット機能を使うと、設定した内容を初期設定に戻せます。

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→2 →［設定リセット］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 ◁ を押します。
- ［設定リセット］画面が表示されます。

3 ▽△ を押して、［実行］を選択します。
OKボタンを押します。





消去メニュー設定

［全コマ消去］・［1コマ消去］・[フォーマット］画面における選択枠の初期位置を、[実行］［中止］のどちらにするかを選択することができます。

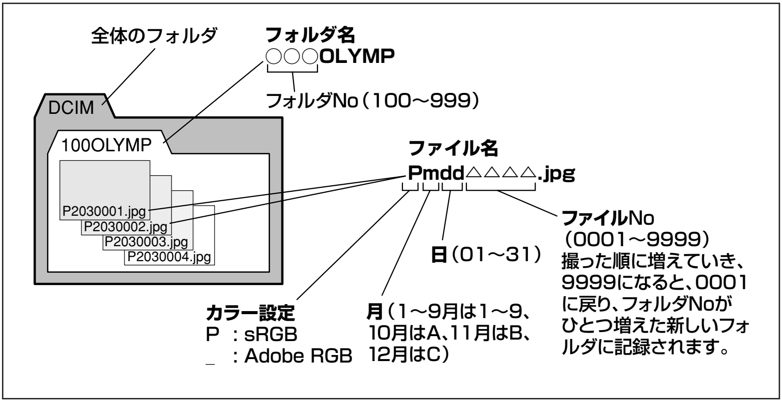
設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→2 →［1コマ消去］→[実行優先]、[中止優先]
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。

ファイルネーム

撮影した画像は、カードに記録されるときに、ファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。



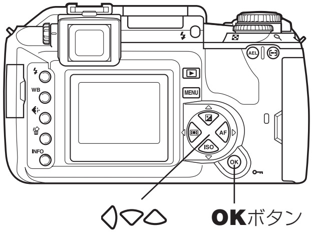
［オート］：
カードを入れ換えても、ファイルNoは通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNoと重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNoに続いた番号が付けられます。

［リセット］：
新しいカードを入れたときは、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNoに続けて番号が付けられます。

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→ 2 →［ファイルネーム］→［リセット］、［オート］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。



注意

最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

撮影後すぐに画像を確認する［レックビュー］

撮影した画像をカードに記録する間、液晶モニタに表示することができます。また、表示する時間も選択できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。
[OFF]　：記録中の画像は表示されません。
[5秒]　：5秒間画像を表示します。
[20秒]：20秒間画像を表示します。

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→ 2 →［レックビュー］→［OFF］、［5秒］、［20秒］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。

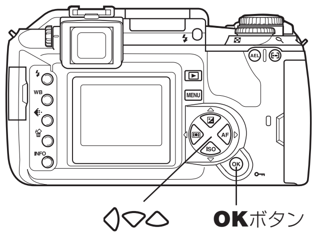
警告音を設定する［ビープ音］

ボタンを押したときにカメラが発する音や警告音をオン／オフすることができます。

設定できるモード P A S M (ポートレート) (風景) (マクロ) (スポーツ) (夜景) SCENE

1 メニュー→ 2 →［ビープ音］→［OFF］、［ON］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。



液晶モニタの明るさを変える［モニタ調整］

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

設定できるモード P A S M (ポートレート) (風景) (マクロ) (スポーツ) (夜景) SCENE

1 メニュー→ 2 →［モニタ調整］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 ◁ を押します。
- ［モニタ調整］画面が表示されます。

3 ▷◁ を押して、明るさを調整します。**OK**ボタンを押します。



8
設定・機能のカスタマイズ

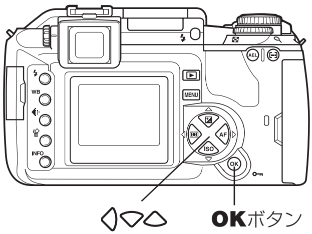
スリープ時間

カメラは何も操作しない状態で一定の時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり動作を停止し、電池の消費を抑えます。[スリープ時間] では、スリープモードに入るまでの時間を設定することができます。[オフ] に設定すると、スリープモードには入りません。
スリープモードを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

設定できるモード P A S M SCENE

1 **メニュー→ 2 → [スリープ時間] → [オフ]、[1分]、[3分]、[5分]、[10分]**
「メニューの使い方」(P.17)

2 **OKボタンを押します。**



PCモード

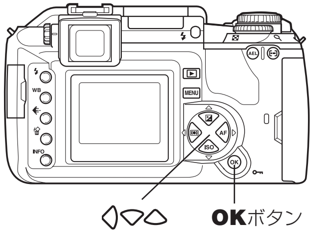
USBケーブルを使って、カメラをPCやプリンタへ直接接続することができます。あらかじめ何に接続するかを設定しておくと、カメラを接続した際に毎回設定する手間を省くことができます。カメラをこれらの機器に接続した際の使い方は、9章「プリントする」（P.129）、10章「カメラをパソコンに接続する」（P.155）をお読みください。

[オート]	：カメラを他の機器と接続したときの使い方を毎回設定します。選択画面が毎回表示されます。
[ストレージ]	：USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、パソコンに画像を転送するときに使用します。カメラをパソコンと接続してOLYMPUS Masterを使うときにもこれに設定します。
[カメラコントロール]	：OLYMPUS Studio（別売）を使い、パソコン側でカメラをコントロールします。
[プリント]	：PictBride対応プリンタと接続するときに設定します。パソコンを使わずに直接画像をプリントできます。「カメラをプリンタに接続する」（P.139）

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→ 2 → [PCモード] → [オート]、[ストレージ]、[カメラコントロール]、[プリント]
「メニューの使い方」(P.17)

3 **OKボタンを押します。**



表示する言語を切り替える

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語ではなく、他の言語にすることができます。

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→ 2 → [ ]
「メニューの使い方」(P.17)



2 **を押します。**
- 言語を選択する画面が表示されます。

3 **を押して、表示したい言語を選択します。OKボタンを押します。**
- OLYMPUS Masterを使って表示する言語を増やすことができます。
  詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをお読みください。

8 設定・機能のカスタマイズ

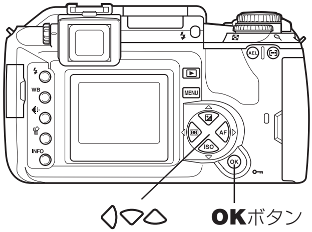
TVにつなぐ前に［ビデオ出力］

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。
海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。設定してからテレビにつないでください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→ 🔧2 →［ビデオ出力］→［NTSC］、［PAL］
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **OK**ボタンを押します。



主な国と地域の映像信号

海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

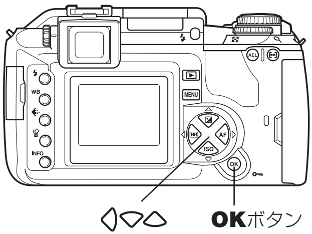
使用するカードを初期化する［カードセットアップ］

フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしなおしてください。

フォーマットすると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

設定できるモード P A S M SCENE

1 メニュー→ → ［カードセットアップ］
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 を押します。
- ［カードセットアップ］画面が表示されます。

3 を押して、［フォーマット］を選択します。を押します。
- ［フォーマット］画面が表示されます。



4 を押して、［実行］を選択します。**OK**ボタンを押します。
- フォーマットが実行されます。

8

設定・機能のカスタマイズ

メモ

9 プリントする

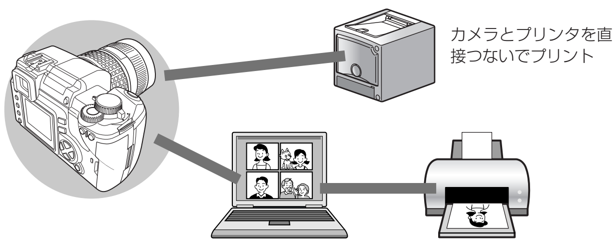
撮った画像をプリントする―それはデジタルライフの次のステージです。これには、プリントショップでプリントする方法と、自分でプリンタを使ってプリントする方法があります。プリントショップでプリントするときは、カードにプリント予約をしておくと便利です。プリント予約は、あらかじめプリントする画像や枚数をカードに設定しておく方法です。

自分でプリントするときは、デジタルカメラを専用プリンタに直接接続して印刷する方法（ダイレクトプリント）と、パソコンに取り込んでパソコンに接続されたプリンタで印刷する方法があります。

プリント予約（DPOF）を使ったプリント



ダイレクトプリント（PictBridge）やパソコンを使ったプリント



プリント予約（DPOF）

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させせることです。
プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。
DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。

プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容に従ってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、DPOF対応のプリンタを使ってカードから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
PCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

（例）FILE 100－0011

フォルダの通し番号（100）　画像の通し番号（0011）



ファイル番号

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）で示されています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをより高画質に設定することをおすすめします。
☞「画質モードを選択する」（P.25）

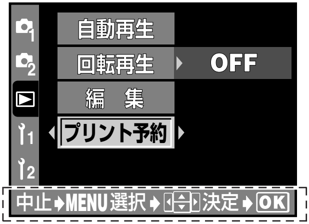
注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと［カード残量がありません］と表示され、予約できない場合があります。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999コマまでです。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

プリント予約設定の流れ

プリント予約には、選択した画像のみプリント予約する［1コマ予約］と、カード内の全画像をプリント予約する［全コマ予約］があります。
カメラのモニタ表示を見ながら設定をすすめてください。

静止画を再生し（☞「1コマ再生」、P.100）メニューから ▶ →［プリント予約］を選択します。◁▷▽△ を使って、設定する項目を選択します。



この部分に表示されるガイドに従って操作を進めてください。

プリント予約モードを選びます。



選択した画像のみをプリント予約するか、カード内の全画像をプリント予約するかを選びます。☞P.134

プリントするコマを選びます。（［1コマ予約］を選択したときのみ）



プリントする画像を選択して、プリントする枚数を設定します。全コマ予約のときはプリント枚数は１枚のみでこの設定はありません。
☞P.134

プリントする情報を設定します。



予約した画像のみをプリントするか、撮影日または撮影時刻を一緒にプリントするかを選びます。
☞P.135

プリント予約を確定します。



カード内の画像にプリント枚数などの情報が記憶されます。
☞P.135

プリント予約モードを選ぶ

プリント予約モードには、［1コマ予約］と［全コマ予約］があります。



［1コマ予約］ 選択した画像のみをプリント予約します。

［全コマ予約］ カード内の全画像をプリント予約します。全コマ予約を設定した後に撮影された画像にはプリント予約がされません。

すでにプリント予約した画像がある場合

その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。

☞「プリント予約を解除する」（P.136）

プリントする画像を選ぶ

選択した画像のみをプリント予約します。プリントする画像を表示してプリント枚数を設定します。プリント枚数は10枚まで設定できます。プリント枚数が0のときはプリント予約がされていません。

１コマ予約をした後に全コマ予約を行うと、プリントされる画像はすべて１枚ずつの設定になります。



プリントする情報を設定する

プリント予約を設定した画像に、撮影した日付や時刻をプリントすることができます。



[なし] 画像のみがプリントされます。
[日付] すべての画像に撮影年月日がプリントされます。
[時刻] すべての画像に撮影時刻がプリントされます。

プリント予約を確定する



[予約する] プリント予約の設定を確定します。
[予約しない] プリント予約をやめて、▶ メニューに戻ります。

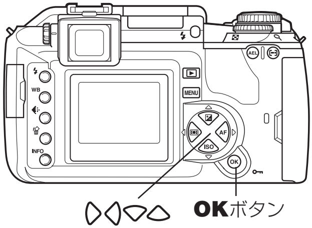
プリント予約を解除する

プリント予約を解除します。すべてのプリント予約を解除する方法と選んだ画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 静止画を再生します。
☞「1コマ再生」(P.100)

2 メニュー→ ▶ →［プリント予約］
☞「メニューの使い方」(P.17)

3 ◁ を押します。
- プリント予約を解除するかどうかの画面が出ます。



すべての予約の解除

4 ▽△ で［解除する］を選択し、**OK**ボタンを押します。

5 **MENU**ボタンを押します。
- ▶ メニューに戻ります。



1コマ予約の解除

4 ［解除しない］を選択し、**OK**ボタンを押します。

5 ▽△ で［1コマ予約］を選択し、**OK**ボタンを押します。



9 プリントする

6 ◁▷ でプリント予約を解除したいコマを表示させ、△ でプリント枚数を0にします。

- 他にも解除するコマがあるときは、これを繰り返します。

0にする



7 終わったら、**OK**ボタンを押します。

- ［日時プリント］画面が表示されます。

8 ▽△ で［なし］、［日付］、［時刻］から選択し、**OK**ボタンを押します。

- 残ったプリント予約されているコマに、選択した設定が適用されます。



9 ▽△ で［予約する］を選択し、**OK**ボタンを押します。

- 設定が記録されます。
- ▶ メニューに戻ります。



9

プリントする

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。
☞P.130
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（☞P.140）で［🖶 標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

プリンタのアクセサリ

プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

注意

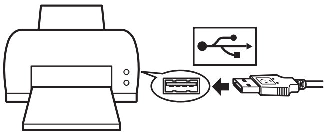
- 電源には別売のACアダプタのご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、十分に充電された電池をお使いください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- RAW データで記録された画像は、プリントできません。
- USB ケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

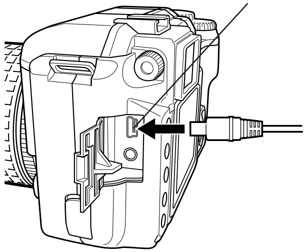
1 プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルのプリンタ接続側のプラグを差し込みます。

- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。



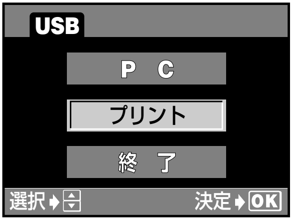
2 専用USBケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。カメラの電源を入れます。

- USB ケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。



3 ［プリント］を選択します。

- ［しばらくお待ちください］と表示されたあとカメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。



4 「プリントまでの操作の流れ」（☞P.140）へ進んでください。

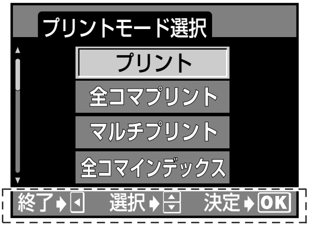
注意

数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USBケーブルを抜いて、手順2からやりなおしてください。

プリントまでの操作の流れ

カメラとプリンタが正しく接続できたら、プリントする画像を選んで予約したり、プリントしたい画像を表示して順にプリントします。
カメラのモニタの表示を見ながら設定をすすめてください。

▷◁▽△ を使って、設定する項目を選択します。



この部分に表示されるガイドに従って操作を進めてください。

プリントモードを選びます。



1枚ずつ画像を選んでプリントするか、まとめてプリントするなどを選びます。
☞P.142

用紙の設定をします。



プリンタの設定に合わせて用紙の設定をしたり、フチのあるプリントにするかを選びます。
☞P.143

プリントするコマを選びます。



プリントしたい画像を表示します。表示している画像をすぐプリントするか、プリントする画像をあらかじめ選択しておくこと（プリント予約）ができます。
☞P.143

プリントする情報を設定します。



プリントする枚数、画像に記録されている日付情報やファイル名を同時にプリントするかどうか設定します。
☞P.144

プリントします。



予約した画像をプリントします。
☞P.144

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。選択できるプリントモードは、以下のとおりです。



[プリント]	選択した画像をプリントします。
[全コマプリント]	カードの中の全画像をプリントします。
[マルチプリント]	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
[全コマインデックス]	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
[予約プリント]	プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約（P.130）された画像が無いときは、選択できません。

プリントモードや各設定の内容について

使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。
詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。





［サイズ］ プリンタで用意されている用紙に合わせます。

［フチ］ 用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。

［分割数］ 同じ画像を1枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで［マルチプリント］を選択したとき、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像をあとでまとめてプリント（1枚予約）したり、表示している画像をプリントすることができます。



プリント［OK］ 表示している画像をプリントします。［1枚予約］をした画像が1枚でもあると、予約されてる画像のみプリントされます。

1枚予約［▲］ 表示している画像をプリントする予約をします。［1枚予約］をしたら、◁▷で、次に予約したい画像を選んでください。

詳細予約［▼］ 表示している画像のプリントする枚数や情報を、プリントするかどうかを設定します。
☞「プリントする情報を設定する」(P.144)

プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。



[プリント枚数]　プリントする枚数を設定します。
[日付]　画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。
[ファイル名]　画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。

プリントする



プリントする画像や内容が決まったらプリントします。
[プリント]　プリンタへプリントする画像のデータを転送します。
[中止]　プリントをやめます。設定してある予約などはすべて失われます。予約した内容を残して続けて予約や設定をしたいときは、◁ を押します。一つ前の設定に戻ります。



プリントを始めてから途中で停止したいときは、**OK**ボタンを押します。
[続行]　プリントを続行します。
[中止]　プリントを停止します。設定した予約はすべて失われます。

エラーコード表示が出たときは

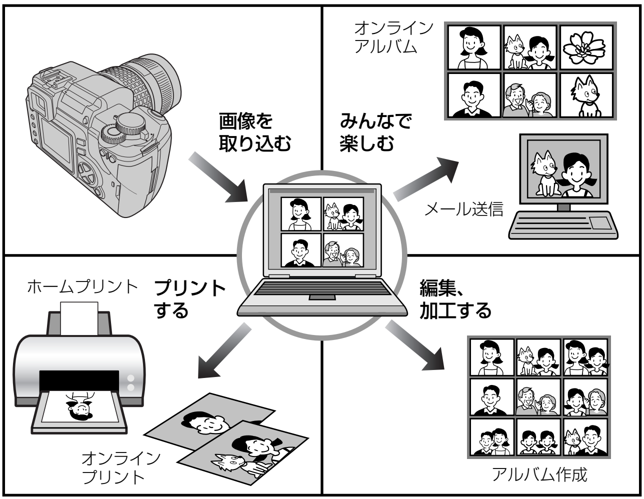
- ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
- 対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。
- その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード表示」（P.166）をご確認ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続しなおしてください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

メモ

10 パソコンに取り込む

撮影した画像をパソコンで利用してみましょう。
お好みの画像を選んでプリントするだけではありません。アプリケーションソフトを使って取り込んだ画像を日付別、目的別などに整理する、画像を編集・加工する、さらにインターネットを利用し、メールに画像を添付して送るなど、カメラの楽しみがどんどん広がります。
パソコンならではの画像の表示方法もあります。スライドショーやHTMLアルバムを作ったり、デスクトップの壁紙にして楽しんだりできます。



操作の流れ

カメラをパソコンにUSB ケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Master を使ってパソコンに取り込みます。

OLYMPUS Masterをインストールする	☞P.151

↓

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する	☞P.155

↓

OLYMPUS Masterを起動する	☞P.157

↓

画像をパソコンに保存する	☞P.158

↓

カメラをパソコンから取り外す	☞P.159

注意

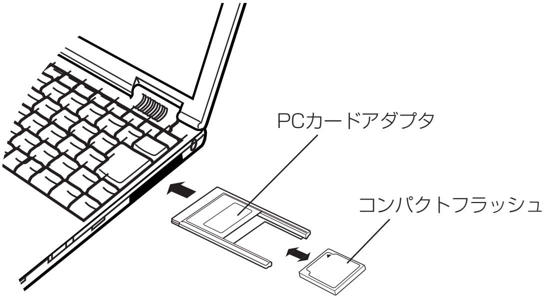
- カメラをパソコンと接続するときは、できるだけACアダプタを使用してください。パソコンとの接続中（通信中）は、自動的に電源が切れません。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中は、絶対に電池カバーやカードカバーを開けたり、ACアダプタの抜き差しをしないでください。
- USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。

パソコンに取り込んだ画像

グラフィックソフトを使っての画像処理は、必ずパソコンに取り込んでから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

USB接続でカメラのデータを取り込めないとき

コンパクトフラッシュはPCカードアダプタなど(別売）で画像を取り込める場合もあります。
詳しくは裏表紙に記載の「ホームページによる情報提供について」をご参照ください。



付属のOLYMPUS Masterを使う

画像の編集・管理を行うために付属のCD-ROMからOLYMPUS Masterをインストールしましょう。

OLYMPUS Masterとは

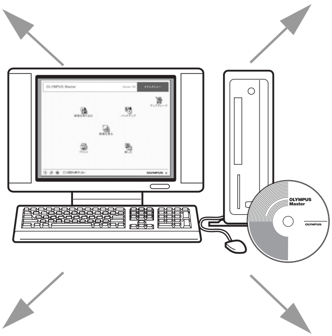
OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむための機能を持つアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

画像を見る・ムービーを見る
スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。

画像を整理・管理する
カレンダー形式で表示して画像を管理します。撮影日時やキーワードで、目的の画像をすばやくみつけることができます。

画像を編集する
画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。

カメラやメディアから画像を取り込む



フィルタ機能、補正機能で画像を補正する

プリンタを使ってプリントする
インデックスプリントやカレンダー、ポストカードなど多彩なプリントが楽しめます。

パノラマ写真を作る
パノラマモードで撮った画像を使ってパノラマ写真を作成します。

上記以外の機能や操作方法については、OLYMPUS Master の［ヘルプ］および取扱説明書をご覧ください。

OLYMPUS Masterをインストールする

お使いのパソコンのOSをご確認の上、インストールしてください。

新しいOSへの対応についてはオリンパスホームページ(http://www.olympus.co.jp)でご確認ください。

動作環境

Windows

OS	Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
CPU	PentiumIII 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB 以上
コネクタ	USB ポート
モニタ	1024x768ドット以上、 65,536色以上

注意

- OSがプレインストールされているパソコンのみ、動作対象となります。
- Windows 2000 Professional/XPでインストールする場合は、管理者権限を所有するユーザでログインしてください。
- パソコンにQuickTime6、Internet Explorer以上がインストールされている必要があります。
- Windows XPはWindows XP Professional/Home Editionに対応しています。
- Windows 2000は、Windows 2000 Professionalにのみ対応しています。
- Windows 98SEをお使いの場合、USBドライバが自動的にインストールされます。

Macintosh

OS	Mac OS X 10.2 以降
CPU	Power PC G3 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024x768ドット以上、 32,000色以上

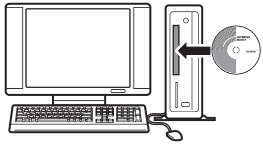
注意

- USBポートが標準装備でないMacintoshでは、パソコンとカメラをUSB接続した場合の動作を保証いたしません。
- パソコンにQuickTime 6以上、Safari1.0以上がインストールされている必要があります。
- 次の操作を行う時は、必ずメディアを取り出す手順（ゴミ箱にドラッグ&ドロップ）を先に行ってください。この手順を行わずに操作すると、パソコン動作が不安定になり、再起動が必要となる場合があります。
  – カメラとパソコンの接続ケーブルを抜く
  – カメラの電源を切る
  – カメラのカードカバーを開ける

インストール

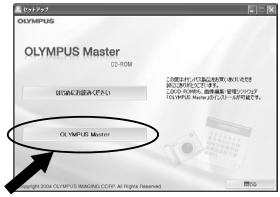
Windowsの場合

1 パソコンを起動してCD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。



- OLYMPUS Masterインストール画面が表示されます。
- 表示されない場合は、［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、CD-ROMアイコンをクリックしてください。

2 ［OLYMPUS Master］ボタンをクリックします。



- QuickTimeインストール用の画面が表示されます。
- QuickTimeはOLYMPUS Masterを動作させる上で必要です。すでにQuickTime 6以上がインストールされている場合は表示されません。手順4に進んでください。

3 ［次へ］ボタンをクリックし、画面のメッセージにしたがって行います。



- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［同意します］をクリックします。
- OLYMPUS Masterインストールの画面が表示されます。

4 画面のメッセージにしたがって行います。



- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［はい］ボタンをクリックします。

- 途中、ユーザ情報の画面が表示されたら、[名前][OLYMPUS Masterシリアル番号]を入力し、お住まいの国を選択して[次へ]ボタンをクリックします。インストールが始まります。シリアル番号は、CD-ROMのパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。DirectXの使用許諾画面が表示されたら契約文をお読みのうえ、[はい]をクリックしてインストールを進めます。
- Adobe Readerをインストールするかどうかを確認する画面が表示されます。Adobe Reader はOLYMPUS Masterの取扱説明書を見るために必要です。すでにAdobe Reader がインストールされている場合は表示されません。



5 **Adobe Readerをインストールする場合は、[OK]をクリックします。**

- インストールしない場合は[キャンセル]をクリックします。手順7に進んでください。
- 続いて蔵衛門体験版のインストール画面が表示されます。インストールする場合は[はい]をクリックしてください。



6 **画面のメッセージにしたがって行います。**

- インストール完了画面が表示されます。



7 **[完了]ボタンをクリックします。**

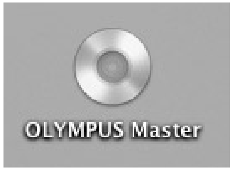
- 最初の画面に戻ります。

8 **再起動を求める画面が表示されたら、すぐに再起動するための項目を選択し、[OK]ボタンをクリックします。**

9 **CD-ROMを取り出し、[完了]ボタンをクリックします。**

Macintoshの場合

1 **CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。**



- CD-ROM のウィンドウが表示されます。
- 表示されない場合はデスクトップのCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

2 **［インストーラ］アイコンをダブルクリックします。**



- 画面のメッセージにしたがって行います。OLYMPUS Masterのインストーラが起動します。
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［続ける］ボタン、［同意します］ボタンをクリックします。
- インストール完了画面が表示されます。

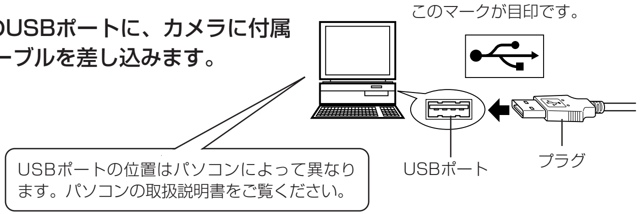
3 **［終了］ボタンをクリックします。**

4 **CD-ROMを取り出して［再起動］をクリックします。**

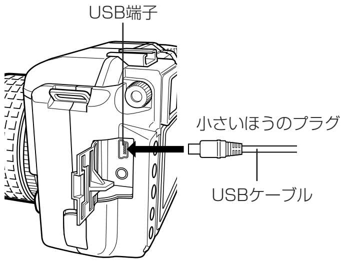
カメラをパソコンに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 **パソコンのUSBポートに、カメラに付属のUSBケーブルを差し込みます。**

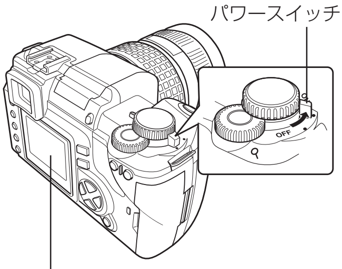


2 **付属のUSBケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。**

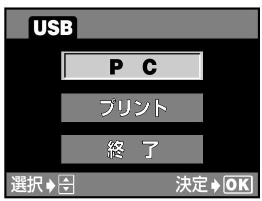


3 **カメラのパワースイッチをONにします。**

4 **▽△ を押して［PC］を選択します。OKを押します。**



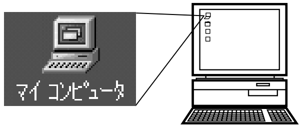
USBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

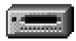


5 **パソコンがカメラを新しい機器として認識します。**

- **Windows 98SE/Me/2000の場合**
  はじめてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを自動的に認識する動作を行い、終了のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは［リムーバブルディスク ］として認識されます。
- **Windows XPの場合**
  パソコンに接続すると、画像ファイルの操作を選択する画面が表示されます。OLYMPUS Master で画像を取り込みますので、［キャンセル］をクリックします。

- **OS Xの場合**
  Mac OSでは、iPhotoが画像処理ソフトとしてあらかじめ設定されています。このデジタルカメラを初めて接続したときは、iPhotoが自動的に起動します。iPhotoを閉じて、OLYMPUS Masterを起動させてください。





注意

パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

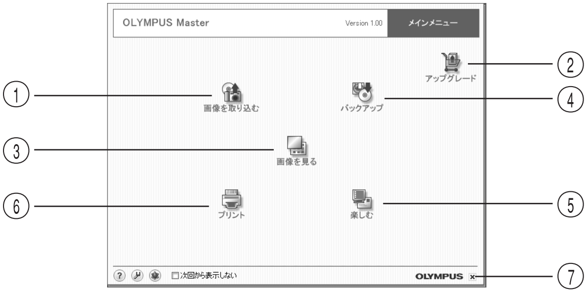
OLYMPUS Masterを起動する

Windowsの場合

1 **デスクトップの（OLYMPUS Master）をダブルクリックします。**
- メインメニューが表示されます。

Macintoshの場合

1 **［OLYMPUS Master］フォルダ内の（OLYMPUS Master）をダブルクリックします。**
- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時にユーザ情報の画面が表示されますので、［名前］［OLYMPUS Master シリアル番号］を入力し、［国］選択してください。



① **［画像を取り込む］ボタン**
画像をカメラまたはメディアから取り込みます。

② **［アップグレード］ボタン**
OLYMPUS Master PLUSへアップグレードできるダイアログボックスが表示されます。

③ **［画像を見る］ボタン**
ブラウズウィンドウが表示されます。

④ **［バックアップ］ボタン**
画像をバックアップします。

⑤ **［楽しむ］ボタン**
楽しむメニューが表示されます。

⑥ **［プリント］ボタン**
プリントメニューが表示されます。

⑦ **閉じるボタン**
OLYMPUS Masterを終了します。

OLYMPUS Masterを終了する

1 **メインメニューで ✖（閉じる）ボタンをクリックします。**
- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

カメラの画像をパソコンに保存します。

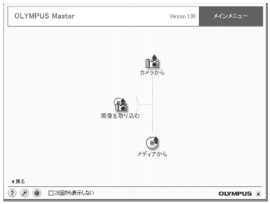
1 **OLYMPUS Masterメインメニューで（画像を取り込む）をクリックします。**

- 取り込み元を選択するメニューが表示されます。

2 

（カメラから）をクリックします。

- 取り込み元のウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。



3 **画像ファイルを選択し、［取り込み］ボタンをクリックします。**

- 確認のメッセージが表示されます。



4 **［今すぐ画像を見る］ボタンをクリックします。**

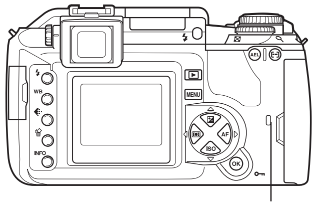
- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。
- ブラウズウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メインメニューに戻ります。
- カードアクセスランプが点滅している間は、絶対にカメラの電池／カードカバーを開けたり、ACアダプタを抜き差ししないでください。ファイルが壊れる可能性があります。



カメラを取り外す

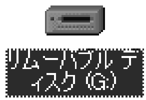
カメラの画像をパソコンに取り込んだら、カメラを取り外すことができます。

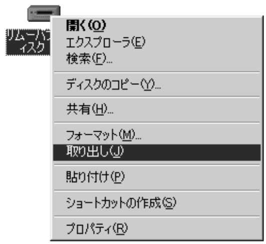
1 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。**



2 Windows 98SEの場合

❶［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックして、［リムーバブルディスク］を右クリックし、メニューを表示させます。
❷メニューの［取り出し］をクリックします。

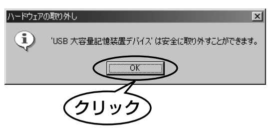




Windows Me/2000/XPの場合

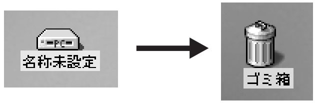
❶システムトレイに表示されている  ［ハードウェアの取り外し］アイコンをクリックします。
❷表示されるメッセージをクリックします。
❸［デバイスは安全に取り外すことができます］が表示されたら、［OK］をクリックします。





Macintoshの場合

❶デスクトップの［名称未設定］（または［NO_NAME］）アイコンを［ごみ箱］にドラッグ&ドロップします。



3 カメラからUSBケーブルを引き抜きます。

注意

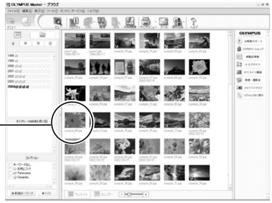
Windows Me/2000/XPの場合：［ハードウェアの取り外し］をクリックした際、［カメラを停止できません］という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、［ハードウェアの取り外し］の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

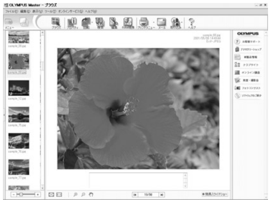
静止画を見る

1 **OLYMPUS Masterメインメニューで（画像を見る）をクリックします。**
- ブラウズウィンドウが表示されます。

2 **見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。**

サムネイル





- ビューモードに切り替わり、画像を拡大されます。
- ブラウズウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メインメニューに戻ります。

プリントする

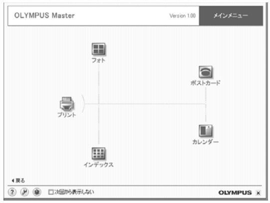
フォト、インデックス、ポストカード、カレンダーなどのプリントメニューがあります。ここではフォトプリントを例に説明します。

1 **OLYMPUS Masterメインメニューで （プリント）をクリックします。**

●プリントメニューが表示されます。

2 **（フォト）をクリックします。**

●フォトプリントウィンドウが表示されます。



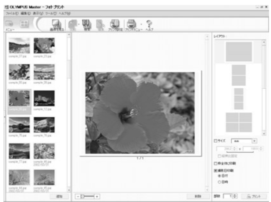
3 **フォトプリントウィンドウの （プリンタ設定）をクリックします。**

● プリンタの設定ダイアログが表示されますので、必要に応じてプリンタの設定をします。



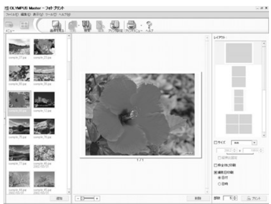
4 **プリントするレイアウトやサイズなどを選択します。**

● 日付または日時を入れて印刷するときは、［撮影日印刷］にチェックをつけて［日付］または［日時］を選びます。



5 **プリントしたい画像のサムネイルを選択し、［追加］ボタンをクリックします。**

●選択した画像がレイアウト上にプレビュー表示されます。



6 **プリントする部数を設定します。**

7 **［プリント］ボタンをクリックします。**

● フォトプリントウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メインメニューに戻ります。

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows　：Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
Macintosh：Mac OS 9.0-9.2/X

注意

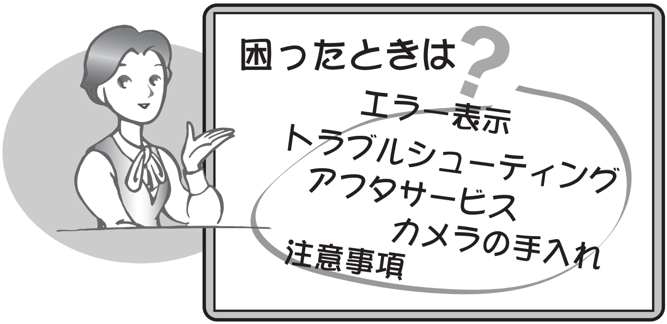
- Windows 98SEをお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する前に、付属のOLYMPUS Master CD-ROMの以下のフォルダのファイルをダブルクリックしてください。OLYMPUS Masterをインストールすると USBドライバも同時にインストールされます。
  (お使いのパソコンのドライブ名)：¥USB¥INSTALL.EXE
- 以下のOS、仕様についてはUSB端子を装備していても正常な動作の保証はできません。
  - Windows 95/98/NT 4.0
  - Windows 95/98からアップグレードしたWindows 98SE
  - Mac OS 8.6以下のバージョン
    (ただし、出荷時にUSB端子、USB MASS Storage Support 1.3.5を装備したMac OS 8.6は動作確認がされています。)
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

メモ

11 付録

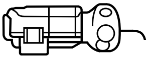
オリンパスからのお願いです。

カメラを使っていて困ったとき、疑問があったとき、ぜひご一読ください。エラー発生！、トラブルあり、うまく撮影できない、カメラの保管方法がわからない、難しい用語を調べたい、などを解決します。



エラーコード表示

ファインダ内の表示	液晶モニタ内の表示	原因	こうしましょう
通常表示	カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
E Card	このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
P Card	書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
表示なし	撮影可能枚数が0 です	カードの撮影可能枚数が 0 のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。

ファインダ内の表示	液晶モニタ内の表示	原因	こうしましょう
表示なし	 この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
oP Card	 カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
F Card	 このカードは使用できません	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
表示なし	 電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。
表示なし	表示なし	カメラの内部が過熱しています。	時間をおいてから電源を入れなおしてください。

故障かな？と思ったら

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない/ボタンを押しても動作しない		
電源が切れている	カメラを長く操作していないと、カメラの電源が自動的に切れます。パワースイッチを**ON**にしてください。	―
スリープモードになっている	シャッターボタンを半押ししてください。	P.124
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	―
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	―
パソコンに接続している	パソコンと接続中はカメラは動作しません。 また［カメラコントロール］モードでは、別売のソフトウェアOLYMPUS Studioが必要です。	P.124
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	―
苦手被写体でAFができない	MFにして、手動でピント合わせをするか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてから撮影してください。	P.22、75
カードに記録中	連続撮影でカメラの一時メモリーが一杯になると撮影できません。	P.197
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、⚡ マークの点滅が終わってから撮影してください。	P.51
カード容量がいっぱいになった	新しいカードに交換するか、不要な画像を消去してください。画像を消去する前に、大切な画像はパソコンに取り込んでください。	P.112、158
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（[電池残量がありません]と表示された後に液晶モニタが消灯した）	電池を充電してください。（カードアクセスランプの点滅が終わるまでお待ちください。）	―
カードに問題がある	エラーコード表示でご確認ください。	P.166

原因	こうしましょう	参照ページ
ファインダが見にくい		
視度調整をしていない	AFフレームがはっきりと見えるように調整してください。	ー
レンズから迷光が入っている	レンズフードをお使いください。	ー
ファインダから迷光が入っている	アイピースカバー（付属）をお使いください。	P.65
レンズやファインダが結露*している	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度に馴染んで乾燥するのを待ってからお使いください。	ー
画像ファイルに記録される日付が正しくない		
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.119
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で長く放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.119
電源を切っても設定が解除されない		
このカメラの仕様です	電源を切っても設定はクリアされません。［設定リセット］で［実行］を選択して、カメラの電源を切ってください。	P.120
ピントが合わない		
被写体が近すぎる	お使いのレンズの最短撮影距離まで下がってから撮影してください。	ー
オートフォーカス（AF）の苦手な被写体である	MFに設定して手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使って撮影してください。	P.22、75
被写体が暗い	メニューで［AFイルミネータ］を［オン］にして、フラッシュを起こしてください。	P.76
レンズやファインダが結露*した	電源を切ってしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	ー

*結露： 外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像のピントが合っていない		
AFが苦手な被写体を撮影した	マニュアルフォーカスにして手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.22、75
シャッターボタンを押すときに、カメラがブレてしまった	ブレた画像はピンぼけのように見えます。カメラを正しく構え、静かにシャッターボタンを押してください。望遠レンズを使う場合には特にご注意ください。	ー
暗いところで、ISOをオートにしていた	シャッター速度が遅くなると手ブレが起きやすくなります。フラッシュを使うか、ISO感度を高くしてください。三脚の使用も効果的です。	P.46、83
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	P.174
撮影した画像が明るすぎる		
中央部に暗いものがある	中央部に暗いものがあると、測光方式によらず周辺部が明るくなります。露出補正をアンダー（−）側に設定してください。	P.80
ISOが高感度設定になっている	ISOをオートまたは100に設定してください。それでも改善されない場合には、NDフィルターをお使いください。	P.83
A(M)モードで明るい絞り値が設定されている	絞り込んでください。または、Pモードに設定してください。	P.35、37
S(M)モードで遅いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を速くしてください。または、Pモードに設定してください。	P.35、39

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像が暗い		
逆光で小さな被写体を撮影した	測光方式をスポットに設定して撮影してください。または、フラッシュをお使いください。	P.46、79
中央部に明るいものがある	中央部に明るいものがあると、測光方式によらず全体が暗くなります。露出補正をオーバー（+）側に設定してください。	P.80
A(M)モードで暗い絞り値が設定されている	絞り値を開放にしてください。または、Pモードに設定してください。	P.35、37
S(M)モードで速いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を遅くしてください。または、Pモードに設定してください。	P.35、39
室内で撮影した画像の色がおかしい		
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。ワンタッチホワイトバランスを使うと、なお効果的です。	P.85
ホワイトバランスの設定をまちがえた	照明に合わせて再度ホワイトバランスを設定してください。	P.85
画像のハレーション部に不自然な色がつく		
紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	● UVフィルターを使用します。全体の色再現バランスを崩す場合がありますので、左記の条件下のみでのご使用をお薦めします。 ● 画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、PaintShopProなど）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行い、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	ー

原因	こうしましょう	参照ページ
画像の左上が明るく写る		
長秒時の撮影では、CCD内部の駆動回路の発熱で発生することがあります。	［ノイズリダクション］を［オン］にして、撮影してください。	P.97
液晶モニタ上で再生できない		
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに［画像が記録されていません］と表示されます。撮影してから再生してください。	ー
カードに異常がある	エラーコード表示でご確認ください。	P.166
カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
ビデオケーブルが正しく接続されていない	説明書にしたがって、正しくケーブルを接続し直してください。	P.108
カメラのビデオ出力設定があっていない	カメラのビデオ出力を使用する地域のテレビ映像方式に合わせてください。	P.126
テレビの入力設定が間違っている	テレビをビデオ映像入力モードに設定してください。	ー
液晶モニタが見にくい		
モニタ輝度調整が適切でない	メニューでモニタの明るさを調整してください。	P.123
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	ー
カメラがパソコンに認識されない		
電源が切れている	パワースイッチを**ON**にしてください。	ー
USBドライバーが正しくインストールされていない	OLYMPUS Masterをインストールしてください。	P.150
カメラコントロールモードになっている	メニューの［PCモード］を［ストレージ］にします。［オート］に設定すると、USBケーブルで接続するたびに設定を選択する画面が表示されます。	P.124

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載の Ⓦ マークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側

→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ

→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ・ミラー・フォーカシンングスクリーン

→ 市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り替えて、カメラの機能をテストしてください。

CCDのクリーニングとチェック

このカメラはCCDにゴミが付着しない構造にするとともに、CCD前面に付着したゴミやホコリを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、パワースイッチをONにするときに働きます。またCCDと画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。
カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。ダストリダクションが動作中はSSWFランプが点滅します。☞「各部の名称」（P.192）

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

CCDのゴミの除去［クリーニングモード］

CCDにゴミやホコリが付着すると、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。このような場合は、オリンパスのサービスステーションへクリーニングをお申し付けください。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいものです。やむなくご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順と注意をお守りください。
クリーニングするときは、専用のACアダプタをご使用ください。電池をお使いの場合、クリーニング中に電池残量がなくなると、シャッターが閉まり、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。

1 **レンズを取り外します。**

2 **パワースイッチをONにします。**

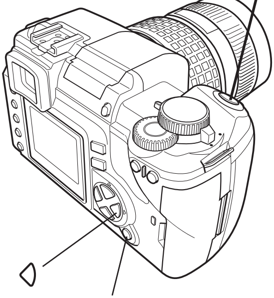
3 **メニュー→ 2 →［クリーニングモード］**
☞「メニューの使い方」(P.17)

4 **◁ を押して、OKボタンを押します。**
- クリーニングモードになります。

5 **シャッターボタンを全押しします。**
- ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

6 **撮像素子をクリーニングします。**
- ブロアー（市販品）で注意しながら、撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。

7 **電源を切ってクリーニングを終えるときは、ブロアーがシャッター幕にはさまらないようにしてください。**
- カメラの電源が切れると、シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。





注意

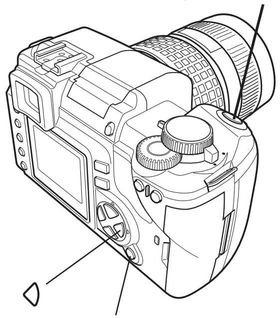
- ブロアー（市販）が撮像素子に触れないようにしてください。もし、ブロアーが撮像素子に触れると傷がつきます。
- ブロアーをレンズマウントより中に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕が破損します。
- ブロアー以外のものは使用しないでください。高圧でガスなどを吹き付けると、撮像素子の表面でガスが凍結して傷がつきます。

画像処理機能をチェックする［ピクセルマッピング］

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 **メニュー→ 2 →［ピクセルマッピング］**
☞「メニューの使い方」（P.17）

2 **◁ を押して、OKボタンを押します。**
- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。







注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

11 付録

使用上の注意

使用条件について

●動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、以下のような場所で長時間使用したり保管しないでください。
- 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
- 砂、ほこり、ちりの多い場所
- 火気のある場所
- 水に濡れやすい場所
- 激しい振動のある場所

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

●レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。

●寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露する場合があります。予めビニール袋などに入れて密封し、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

●長期間使用しないと、かびがはえたり故障の原因になることがあります。
使用前には動作点検をされることをおすすめします。

●電気接点部や交換用レンズには触れないでください。レンズを外すときは、ボディキャップを必ず取り付けてください。

●カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。

電池について

●当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。使用できる機種については、カメラの取扱説明書でご確認ください。

●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。

●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

●撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。

●長期間の旅行などには、予備の電池を用意することをおすすめします。

- **ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には＋－端子をテープで絶縁してから、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは社団法人電池工業会のホームページ（http://www.baj.or.jp/recycle/）をご覧ください。**

充電器について

- 本機器は0℃～40℃の範囲での使用を保証しておりますが、性能を十分に発揮させるためには10℃～30℃の範囲内で充電することをお勧めします。
- 充電表示ランプが赤色に点滅する場合は、電池が正しく取り付けられていないか、電池が壊れている可能性があります。
- 充電の最中に電池が暖かくなりますが、異常ではありません。
- 充電の最中にテレビ・ラジオにノイズが生じることがありますが故障ではありません。そのような場合にはテレビ、ラジオから離れたコンセントをご使用ください。

液晶モニタについて

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
  パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

- **お名前（フリガナ）**
- **連絡先：** 郵便番号
  ご住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
  電話番号／FAX
  E-mail
- **製品名（型番）：**
- **シリアル番号（製品底面に記載されています）：**
- **お買い上げ日：**
- **問題が発生したときの症状（表示されたメッセージ、症状の再現性など）：**

※以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

- **ご使用のパソコンの種類：**
  パソコンメーカー・型番等
- **メモリの容量　ハードディスクの空き容量：**
- **OS名とバージョン：**
  （Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
  （Windows）コントロールパネルーシステム―デバイスマネージャーの内容
- **その他接続されている周辺機器名：**
- **問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：**
- **問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：**

圧縮率
画像などのデータの内容を一部省略してファイルサイズを小さくすることを、圧縮するといい、圧縮によって小さくなる割合を圧縮率といいます。実際の圧縮率は、画像によって変わるので、このカメラで画質として設定する圧縮率はあくまで目安とするためのものです。

一眼レフ方式（single lens reflex camera）
撮影用レンズとファインダ用レンズをひとつのレンズで行うカメラ。カメラのなかに反射ミラーを置き、レンズを通った被写体の画像をそこに反射させて、ピントグラスに到達させます。そこでピントが合うようにしています。ファインダを通して見た構図やピントで撮影されます。

色温度
光源の色を表すための指標。絶対温度の単位K（ケルビン）で表します。プランクの放射則にしたがった理想的な黒体を熱していくと、温度によって、暗赤色から、オレンジ、黄色、白、青白色と、発光する色が変わっていくので、その色を絶対温度で示すことができます。ただし、蛍光灯のように実際の温度と色温度が異なることもあります。プリセットホワイトバランスのときは、色温度を使って光源の色を設定します。

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ（ピクセルサイズ）
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640x480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640x480のときではモニタ全体に表示されますが、1024x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

カラー空間
3つ以上の座標値で色を表すモデルのこと。色空間は、色のコード化と可視化に複数の手法を用いる場合があります。sRGB、Adobe RGBがそれにあたります。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

スポット測光
ファインダの中央のごく一部を測光する測光方式。被写体の特定の部分に露出を合わせることができるため、明暗差の大きい被写体を撮影するときなどに適しています。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

中央重点測光
画面中央部の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響されることがあります。

デジタルESP測光（electro selective pattern）
周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

被写界深度
ある距離に焦点を合わせたとき、その距離にある被写体がはっきりと写るのと同時に被写体の前後でも、焦点が合っている範囲があります。このはっきりと写っている被写体の前後の奥行のことをいいます。

フラッシュブラケット
フラッシュを撮影レンズからはなして使うときに用いる器具。被写体の影のでき方を変えることができます。フラッシュケーブルと併せて使います。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

A モード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE （automatic exposure）
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

Mモード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

Pモード（program mode）
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

PictBridge
異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

RAWデータ
未加工のデータ。ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない、撮影したままのデータのことをいいます。当社独自のファイルなので、画像として表示するには専用のソフトが必要です。一般のソフトウェアで表示したり、DPOFでプリントすることはできません。拡張子は「.ORF」。

Sモード（shutter speed priority mode）
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF（tagged image file format）
モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。このカメラでは圧縮しない画像のフォーマットに採用しています。

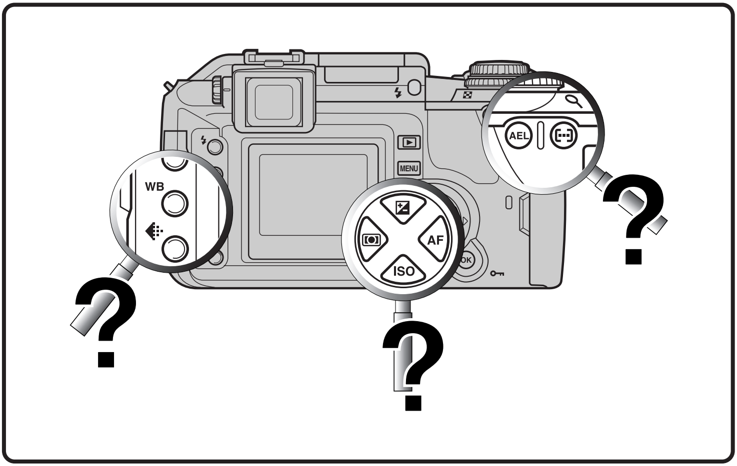
TFT（thin-film transistor）
カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL（through-the-taking-lens）方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL位相差検出方式
位相差をもとに被写体までの距離を測り、焦点を合わせる方式。

12 資料

1章から11章で説明したカメラのすべての機能を網羅しています。
カメラのボタンや部位の名前、液晶モニタに表示されるアイコンの名前と意味、メニューの一覧など、必要に応じてご覧ください。
索引もありますので、目次からは見つからない機能や項目が記載されているページを探すときにお使いください。また、「各部の名称」や「メニュー一覧」も索引の役目をはたしますので、有効にご活用ください。



メニュー一覧

●撮影メニュー

メニュー	項目	選択肢	参照ページ
[カメラ]1	[露出補正]	–5.0 ～ 0.0 ～ +5.0	P.80
	[記録モード]	RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ、RAW+SHQ、RAW+HQ、RAW+SQ	P.28
	[フラッシュ]	オート、[赤目]、[赤目][フラッシュ]SLOW、[フラッシュ]SLOW、[フラッシュ]SLOW2、[フラッシュ]、[発光禁止]	P.50
	AF	S-AF、C-AF、MF、S-AF+MF	P.71
	WB	オート、3000K、3600K、4000K、4500K、6600K、5300K、6000K、7500K、CWB1、CWB2、CWB3、CWB4、[ワンタッチWB]	P.87
	ISO	オート、100、200、400、800、1600	P.83
	[測光]	ESP、[中央重点]、[スポット]	P.78
	[AFエリア]	オート、[左]、[中央]、[右]	P.70

■：初期設定

メニュー	項目	選択肢		参照ページ
2	カードセットアップ	**全コマ消去**	実行、**中止**	P.113
		フォーマット	実行、**中止**	P.127
	ドライブ	**単写**		P.58
		連写		P.58
		BKT	3F 0.3EV、3F 0.7EV、3F 1.0EV	P.60
			（セルフタイマー）、（セルフタイマー）2秒	P.64
			（リモコン）、**（リモコン）2秒**	P.64
	フラッシュ補正	−2.0～ **0.0** ～+2.0		P.52
		実行、中止		P.89
	モノトーン撮影	**OFF**、モノクロ、セピア		P.67
	階調	ハイキー、**標準**、ローキー		P.96
	彩度	−2.0～ **0.0** ～+2.0		P.95
	コントラスト	−2.0～ **0.0** ～+2.0		P.94
	シャープネス	−2.0～ **0.0** ～+2.0		P.93
	WB BKT	**OFF**、3F 2STEP、3F 4STEP、3F 6STEP		P.63
	HQ	1/4、**1/8**		P.28
	SQ	3200×2400 2560×1920 1600×1200 **1280×960** 1024×768 640×480	1/2.7、**1/4**、1/8	P.28
	ノイズリダクション	**OFF**、ON		P.97

: 初期設定

12

資料

● 再生メニュー

メニュー	項目	選択肢		参照ページ
▶	自動再生	1、4、9、16		P.106
	回転再生	OFF、ON		P.107
	編集	JPEG/TIFF編集	モノクロ作成 セピア作成 リサイズ	P.109
		RAW編集	実行、中止	
	プリント予約	1コマ予約、全コマ予約		P.134

●カスタムメニュー

メニュー	項目	選択肢		参照ページ
1	露出ステップ	1/3EV、1/2EV、1EV		P.116
	ISO感度拡張	OFF、ON		P.84
	内蔵フラッシュ拡張	OFF、ON		P.116
	WB補正	オート 3000K 3600K 4000K 4500K 5300K 6000K 6600K 7500K	BLUE7～±0～RED7	P.90
	カスタムWB設定	CWB1 CWB2 CWB3 CWB4	2000K～10000K	P.92
	AFイルミネータ	OFF、ON		P.76
	AEL測光モード	オート、ESP、中央重点、スポット		P.116
	OKボタン設定	OFF ショートカット プレビュー AF/MF		P.117

●セットアップメニュー

メニュー	項目	選択肢	参照ページ
	日時設定		P.119
	設定リセット	実行、**中止**	P.120
	ファイルネーム	**オート**、リセット	P.121
	レックビュー	OFF、**5秒**、20秒	P.122
	ビープ音	OFF、**ON**	P.123
	モニタ調整	−7～**0**～+7	P.123
	スリープ時間	オフ、**1分**、3分、5分、10分	P.124
	PCモード	**オート**、ストレージ、カメラコントロール、プリント	P.124
		**日本語**、ENGLISH	P.125
	ビデオ出力	**NTSC**、PAL	P.126
	ピクセルマッピング		P.176
	クリーニングモード		P.175
	レンズリセット	OFF、**ON**	P.118
	消去メニュー設定	**中止優先**、実行優先	P.120
	カラー設定	**sRGB**、Adobe RGB	P.98
	フォーカスリング	、	P.118
	バージョン*		

*カメラや接続されているアクセサリ類のファームウェアのバージョンを表示します。

（網掛け）：初期設定

撮影モード別使用可能な機能

<table>
<tr><th colspan="2">モード
機能</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th></th><th>SCENE</th></tr>
<tr><td colspan="2">絞り値設定</td><td>—</td><td>✓</td><td>—</td><td>✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">シャッター速度</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">バルブ撮影</td><td colspan="3">—</td><td>✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出補正</td><td colspan="3">✓</td><td>—</td><td>✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">画質設定</td><td colspan="5">✓</td><td>✓（ は除く）</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ撮影</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="8">フラッシュモード</td><td>AUTO</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">—</td><td>✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>👁</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">—</td><td>✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>👁⚡SLOW</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">—</td><td>✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>⚡SLOW</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">—</td><td>✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>👁⚡</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">✓</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>⚡SLOW2</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>⚡</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>Ⓢ</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFモード選択</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">ISO感度選択</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホワイトバランス設定</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">測光</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFターゲット
マーク選択</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">プレビュー</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">連写</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">BKT</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">セルフタイマー</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">リモコン</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ補正</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">ワンタッチホワイト
バランス</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">モノトーン撮影</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">階調</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">彩度</td><td colspan="4">✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">コントラスト</td><td colspan="4">✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
</table>

✓：使用可能　—：使用不可

モード / 機能	P	A	S	M		SCENE
シャープネス	✓				—	
WB BKT	✓					—
HQ設定	✓					✓（ は除く）
SQ設定	✓					✓（ は除く）
ノイズリダクション	✓					—
露出ステップ	✓					—
ISO感度拡張	✓					—
内蔵フラッシュ拡張	✓					—
WB補正	✓					—
カスタムWB設定	✓					—
AFイルミネータ	✓					—
AEL測光モード	✓					—
OKボタン設定	✓					—
日時設定	✓					
設定リセット	✓					
ファイルネーム	✓					
レックビュー	✓					
ビープ音	✓（ は除く）					
モニタ調整	✓					
スリープ時間	✓					
PCモード	✓					
言語選択	✓					
ビデオ出力	✓					
ピクセルマッピング	✓					
クリーニングモード	✓					
レンズリセット	✓					
消去メニュー設定	✓					
カラー設定	✓					
フォーカスリング	✓					—

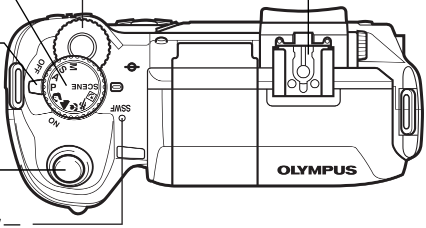
✓：使用可能　　—：使用不可

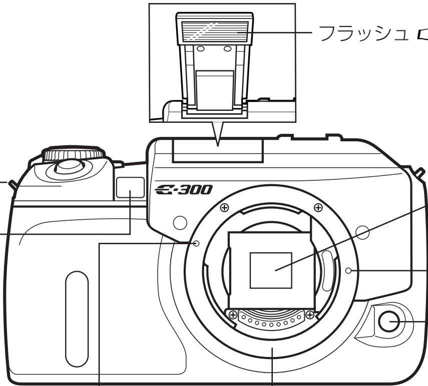
12

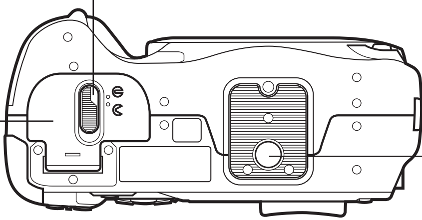
資料

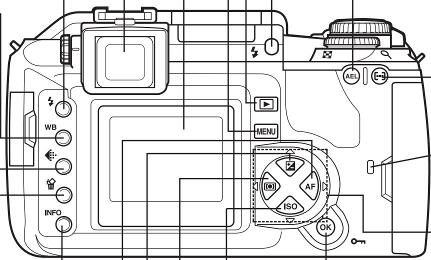
各部の名称

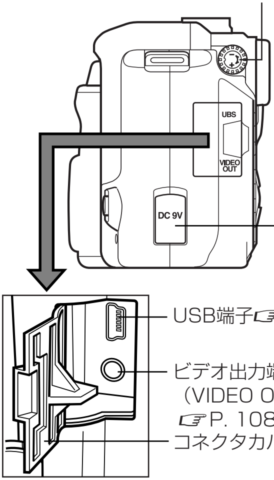
カメラ

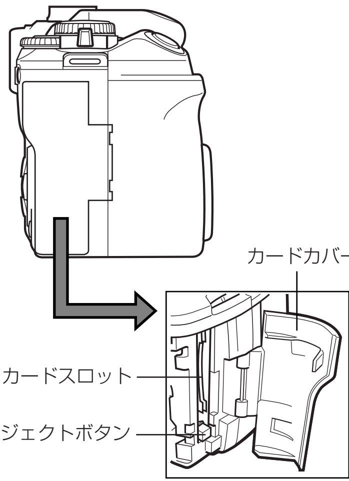

コントロールダイヤル ☞P. 11
ホットシュー ☞P. 53
モードダイヤル ☞P. 10
パワースイッチ
シャッターボタン ☞P. 22
SSWFインジケーター ☞P. 174
OLYMPUS


フラッシュ ☞P. 50
ストラップ取付部
ミラー
セルフタイマー/リモコンランプ/リモコン受信窓 ☞P. 66
レンズロックピン
レンズ着脱ボタン
レンズ合わせマーク
マウント
（ボディキャップを外してからレンズを取り付けます。）

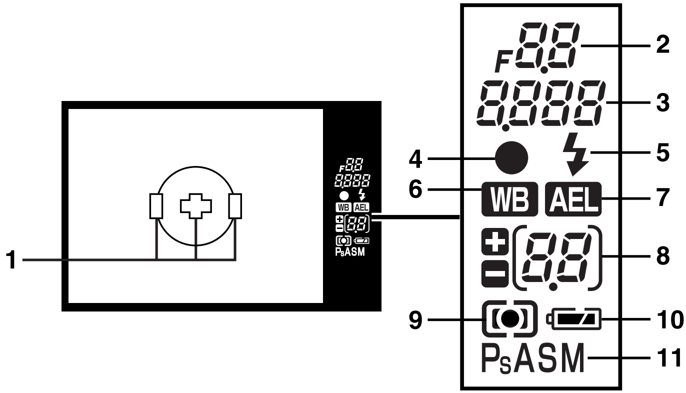

電池カバーロック
電池カバー
三脚穴


液晶モニタ ☞P. 11、17、100、123
ファインダ ☞P. 22
⚡（フラッシュモード）ボタン☞P. 50
WB(ホワイトバランス)ボタン☞P. 87
（画質モード）ボタン☞P. 28
（消去）ボタン☞P. 112
INFO(情報表示)ボタン☞P. 104
MENUボタン☞P. 17
▶（再生）ボタン☞P. 100
⚡（フラッシュ）スイッチ☞P. 50
AEL（AEロック）ボタン ☞P. 82
[···]（AFフレーム選択）ボタン☞P. 70
カードアクセスランプ☞P. 159
十字ボタン☞P. 17、100
OK/（プロテクト）ボタン☞P. 17、111
ISOボタン☞P. 83
（測光）ボタン☞P. 78
（露出補正）ボタン ☞P. 80
AFボタン☞P. 71
WB
INFO
MENU
AEL
AF
ISO
OK


視度調整ダイヤル
UBS
VIDEO OUT
DC 9V
DC入力端子
USB端子☞P. 155
ビデオ出力端子（VIDEO OUT）☞P. 108
コネクタカバー


カードカバー
カードスロット
イジェクトボタン

ファインダ内の表示



	項目	表示例	参照ページ
1	AFフレーム		P.70
2	絞り値	F5.6	P.37～42
3	シャッター速度 画質モード ［ （画質モード）ボタンが押されたときのみ表示］	250	P.38～42
4	合焦マーク	●	P.23
5	フラッシュ		P.51
6	ホワイトバランス	WB	P.87
7	AEロック	AEL	P.82
8	撮影可能枚数（画質モード設定中） 露出補正値（露出補正設定時）	12 0.7	— P.81
9	測光モード	ESP, ,	P.78
10	電池残量	, （点滅）	P.197
11	露出モード	P, Ps, A, S, M	P.35～43

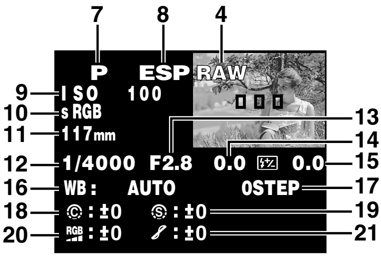
液晶モニタ内の表示（再生時のみ）

INFO(情報表示)ボタンを使って表示を切り替えることができます。

☞「情報表示」(P.104)



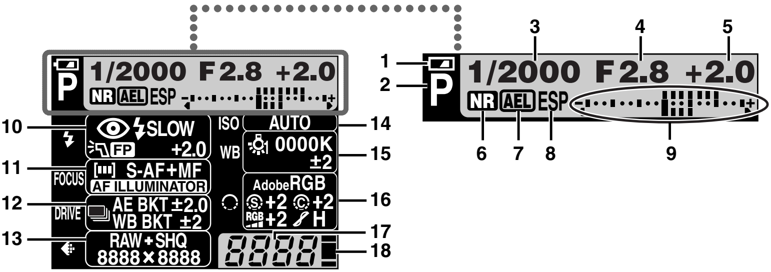
1コマ再生情報



撮影情報

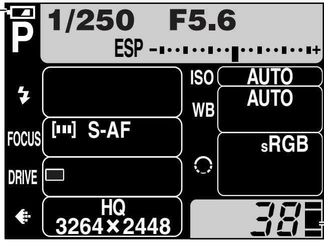
	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	,	P.197
2	プリント予約 プリント枚数	X10	P.132
3	プロテクト		P.111
4	画質モード	RAW, TIFF, SHQ, HQ, SQ	P.27
5	日時	04. 12. 23. 21:56	P.119
6	ファイル番号 コマ番号	100-0030 30	P.105
7	露出モード	P, A, S, M, , , , ,	P.30
8	測光モード	ESP, ,	P.78
9	ISO感度	AUTO, ISO 100, ISO 200, ISO 400	P.83
10	カラー設定	sRGB, Adobe RGB	P.98
11	焦点距離	117mm	—
12	シャッター速度	1/4000	P.38～42
13	絞り値	F2.8	P.37～42
14	露出補正	0.7	P.80
15	フラッシュ補正	0.5	P.52
16	ホワイトバランス	WB : 3300K	P.88
17	ホワイトバランス補正	3 STEP	P.90
18	コントラスト	: +2	P.94
19	シャープネス	: +2	P.93
20	彩度	: +2	P.95
21	階調	H, L	P.96

スーパーコンパネ画面表示

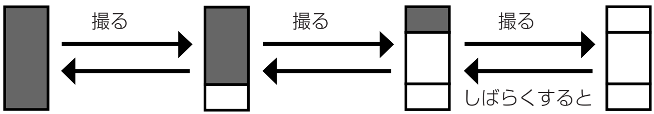


	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	(電池アイコン), (電池アイコン)	P.197
2	露出モード	**P**, **A**, **S**, **M**, (シーンアイコン)	P.30
3	シャッター速度	1/2000	P.38～42
4	絞り値	F2.8	P.37～42
5	露出補正値	+2.0	P.80
6	ノイズリダクション	NR	P.97
7	AEロック	AEL	P.82
8	測光モード	**ESP**, (測光アイコン), (測光アイコン)	P.78
9	露出補正インジケータ 露出レベルインジケータ	(インジケータ)	P.42 P.81
10	フラッシュモード スーパーFP発光 フラッシュ補正値	SLOW, (フラッシュアイコン) FP +2.0	P.49 P.52
11	AFフレーム	[ııı]	P.70
12	ドライブモード オートブラケット撮影	(連写アイコン), (単写アイコン) AE BKT ±2.0	P.58 P.60
13	画質モード 画素数	RAW+SHQ 1280×960	P.27
14	ISO感度	AUTO, 100, 200, 400	P.83
15	ホワイトバランス	1 3300K, 5300K	P.88
16	カラー設定 シャープネス コントラスト 彩度 階調	sRGB, Adobe RGB S +2 C +2 RGB +2 H, L	P.98 P.93 P.94 P.95 P.96
17	撮影可能枚数 エラーコード	135 CARD ERROR　NO CARD	—
18	メモリーゲージ	(ゲージアイコン)	P.197

メモリーゲージ



シャッターボタンを押すと、スーパーコンパネにメモリゲージが点灯します。点灯中は撮影した画像をカードへ記録しています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって変化します。



撮影前(消灯)

1枚撮影（点灯）

2枚以上撮影（点灯）

撮影できません（すべて点灯）
しばらく待って撮影前の状態に戻ったら次の撮影ができます。

電池残量マークについて

電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、電池残量の表示が変化します。



点灯（緑）　**点滅＊2（赤）**　**[電池残量がありません] と表示されます。**

撮影できます。＊1

電池残量が少なくなりました。早めに充電してください。

電池残量が完全になくなりました。電池を充電してください。

＊1 デジタルカメラは、動作状態により消費電力が大きく変わります。カメラの動作状態によっては、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。その際は電池を充電してください。

＊2 ファインダ内表示では点滅します。

索引

◆ 英数・記号 ◆

◆ あ行 ◆

◆ か行 ◆

◆ さ行 ◆

◆ た行 ◆

◆ な行 ◆

◆ は行 ◆

◆ ま行 ◆

◆ や行 ◆

◆ ら行 ◆

◆ わ行 ◆

メモ

メモ

メモ

メモ

OLYMPUS

オリンパス イメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1　新宿モノリス

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を、当社のホームページで提供しております。

オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp/）より「お客様サポート」→「映像・情報分野」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

● **電話等でのご相談窓口**

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル **0120-084215**

携帯電話・PHSからは　0426-42-7499

FAX　**0426-42-7486**

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　9:30〜21:00

土、日、祝日　10:00〜18:00

（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

● **修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先**

TEL: 0266-26-0330　FAX: 0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮　3-15-1　オリンパス岡谷修理センター

営業時間9:00〜17:00（日曜、夏期・年末年始休業、システムメンテナンス日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)3403
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央１の13の4　泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6995
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

※ 土・日曜、祝日および夏期休業、年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

Printed in China

VE835401